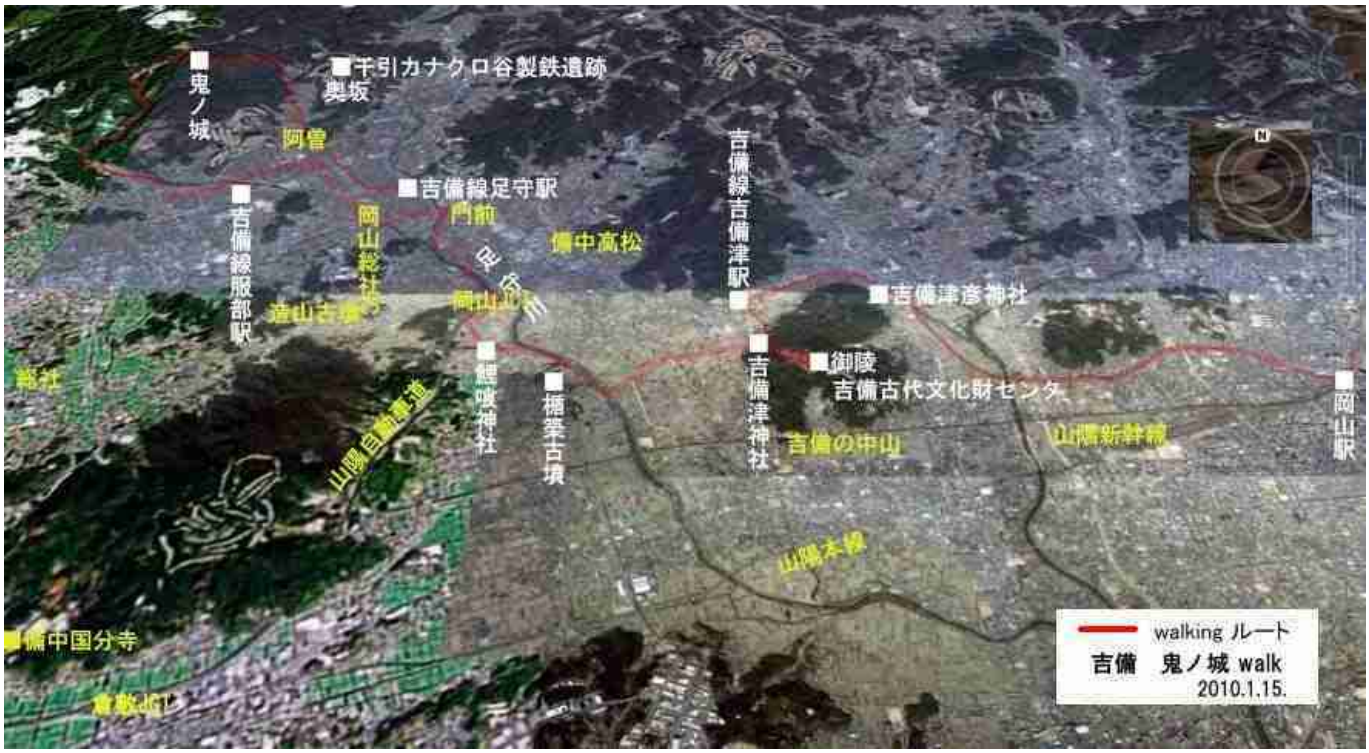
2.

桃太郎伝説の吉備路 walk　鬼ノ城を訪ねる　2010.1.15.

唐の侵攻に備えた古代７世紀の朝鮮式山城「鬼ノ城」の中に鍛冶工房があった



昨年　１２月　岡山　鬼ノ城の中から　鍛冶工房が出土したと聞いて、久しぶりに整備が進んでいると聞いた「鬼ノ城」を訪ねました。　「鬼ノ城」のある鬼城山は高さ 400m と低いのですが、吉備・総社の街の背後にそびえ、その山上部にある復元された楼閣がその下に広がる総社平野から見渡せ、桃太郎説話の元となった「鬼・温羅」の住処の伝説の地。そして　その東山麓　　血吸川が南に流れ下る阿曽の郷は「真金吹く　吉備」の古代吉備の製鉄の中心地であり、日本最古　６世紀の製鉄炉が出土した千引カナクロ谷製鉄遺跡が眠る地である。

この地で製鉄を始めた渡来製鉄集団が吉備を豊かにし、それを手に入れようとする大和との争いが「温羅」伝説となり、桃太郎の鬼退治伝説のルーツとする説もあり、この血吸川やその下流の足守川沿いから吉備の海岸線であった「吉備の中山」には点々とその伝説の痕跡が残っている。　そして　吉備の中山には鬼退治をその後吉備を治めた吉備津彦を祭る吉備津神社・吉備津彦の墓との伝承がある御陵があり、吉備津神社には　境内お釜殿の下にうずめられた「温羅」の首が１３年もの間うなり続けたとの伝承にルーツを持つ「お釜神事」が今も残る。

「吉備の中山から川沿いに温羅の痕跡をたどって、
整備の進む「鬼ノ城」とそこに出土した鍛冶工房跡を目指して歩こう。
また、鬼ノ城から直下の阿曽の郷にくだって
今はゴルフ場の下になっているという日本最古級の製鉄遺跡千引カナクロ谷製鉄遺跡の位置をしっかり眺めたい。」

すぐにコースが頭に浮かんでくる。

鬼ノ城の鍛冶工房はすでに埋め戻しされているが、吉備の中山にある吉備古代文化センタに出土品の展示がされていると教え

てもらったので、これを見学して、鬼ノ城から阿曽に下る道・千引カナクロ谷製鉄遺跡の様子も教えてもらおう。
吉備の中山と鬼ノ城を結ぶのはちょっと欲張りの計画。　どうせ　鬼ノ城の登り口ビジターセンターまでの足がないので、どこかでタクシー頼めばよいと GPS を腰にぶら下げて　１日たっぷり、吉備の鬼を訪ねて歩きました。
　コース概略は次のとおりです。

岡山駅－吉備線→吉備津駅→吉備津神社→吉備の中山－御陵・吉備古代文化財センター→吉備津神社
→　総社への田圃の中のサイクリングロードを西へ足守川の土手へ walk
→　足守川沿いを左に楯築遺跡　右に吉備の中山　北の鬼ノ城・阿曽の郷をめざして walk
→　鯉喰神社→足守川土手→足守駅・門前集落→　タクシ　→鬼城山８合目　鬼ノ城ビジターセンタ
→　鬼ノ城・鍵岩展望台→西門・楼閣→南門→東門→鍛冶工房跡
→　東門→直下の阿曽の里へ下る→阿弥陀原・奥坂休憩所→血吸川沿いを足守駅
→岡山

【本・インターネット検索などで調べた参考解説】

1. **桃太郎説話の元となった「温羅」伝説**

　　おかやま物語・総社市鬼ノ城・吉備津神社&　吉備津彦神社などの home page　より整理転記

2. **奥坂製鉄遺跡群　千引カナクロ谷製鉄遺跡**

「現在出土している日本最古後半の製鉄炉がある千引カナクロ谷製鉄遺跡」

　　光永真一著　吉備考古ライブラリー・10　「たたら製鉄」より　整理転記

3. **古代の山城　「鬼ノ城」で鍛冶炉跡が６基出土　　大規模にこの山城で鉄器生産か**

　　７世紀後半 663 年 朝鮮半島白村江の戦いでの敗北から、唐・新羅の連合軍の本土侵攻する備えか

　　岡山県古代吉備文化財センター ホームページ ほかより整理

【参考　和鉄の道】

真金吹く吉備国　　吉備の鉄 と桃太郎伝説 http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb11.pdf

足守川土手より眺める　左:吉備の中山　右:鬼城山

1.　吉備の中山〔吉備津神社・御陵・吉備古代文化財センター〕walk

吉備津神社の「鳴釜神事」　本当に釜が唸るのにびっくり　唸るのですね・・・・

吉備津駅周辺より吉備の中山　右端にまっすぐ吉備津神社の参道が伸びる　20101.15.

１月１５日晴れ　朝早く新快速を乗り継いで岡山へ。岡山で吉備線に乗り継いで東側からぐるっと吉備の中山を北に回りこんで、１１時過ぎに吉備津駅で下車。駅のすぐ際の南側に吉備のシンボル「吉備の中山」があり、その中山に向かって、まっすぐ 松並木の参道が吉備津神社へ延びている。

吉備の中山へは吉備津神社へお参りして、その横から登る。何度か着たのでよく知った路たである。

今日は　吉備古代文化センタで展示されている鬼ノ城鍛冶工房発掘で出土した異物展示をみることと「温羅」の首が埋められてうなり続けたという吉備津神社のお釜殿を見る事が一番。まず　吉備津神社へお参り。

吉備津神社　参道　　2010.1.15.

吉備津神社は鬼退治をした吉備津彦を祭る神社。　また　境内にあるお釜殿では「鳴釜神事」が今も行われている。

今日はこの「鳴釜神事」が見られるかもしれないと思いつつ鳥居をくぐる。

吉備の中山の山腹に本殿があるので　急な階段を登りきると広い境内の向こう山腹を背に社殿が建っち、社殿からは西へ緩やかなスロープで山腹に沿って回廊が西側山裾まで延びていて、下の境内にお釜殿が建っている。

中山への登り口はこの吉備津神社の西側に沿って車道が伸び、中山の山頂部を超えて東側山裾　同じく吉備津彦を祭り、備前の一宮吉備津彦神社へと延びている。この吉備の中山は備前と備中の境界にあり、吉備津神社は備中にある。

大化の改新の後　国が整備され、吉備が備前・備中・備後に分かれたときにそれぞれに吉備津彦を祭る神社がそれぞれ分社されたために、この中山に吉備津彦をまつる大きな神社が二つたっているというおかしなことになったようだ。
どうも　ルーツはこの備中側にある吉備津神社らしい。　まずは　本殿でお参りして、お釜殿へ。

吉備の中山の山腹に建つ吉備津神社　本殿　20101. 15.

吉備津神社本殿から西へ伸びる長い回廊　2010. 1. 15.

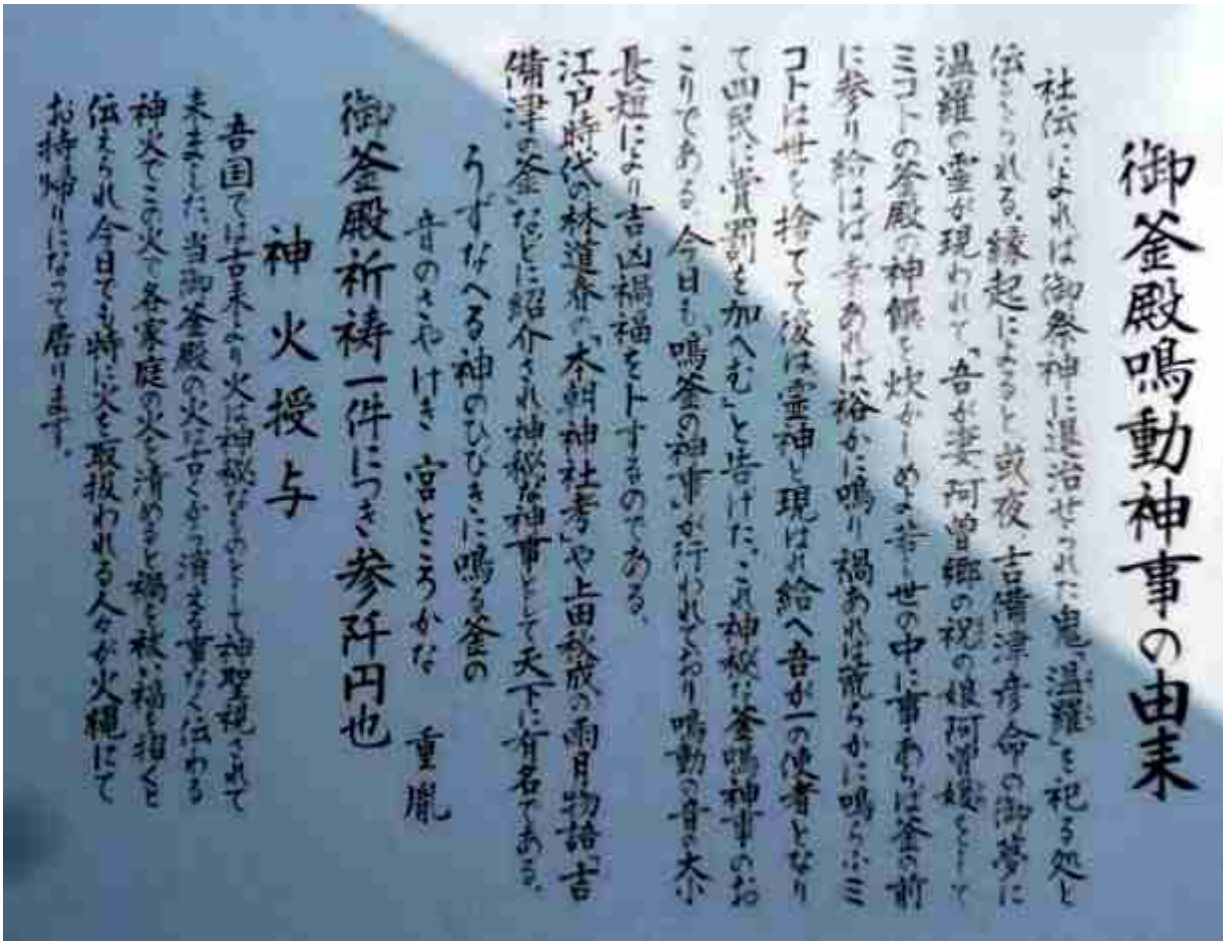
山腹にある社殿から長い回廊を通って西へ下った境の一角にお釜がある。

あの退治された「温羅」の首が吠え続けるので、このお釜殿の下にうずめたが、１３年間も唸り続ける。
そしてある夜　吉備津彦命の夢に温羅が現れ、「わが妻・阿曽媛にお釜殿の火を炊かせば釜を唸らせてこの釜で世の吉凶を占おう」といったので、そのお告げの通りにすると、唸り声も治まり平和が訪れた。

あのお釜殿である。
そして　今もその「鳴釜神事」が行われているという。
回廊を降りて　お釜殿へ向かうとラッキーなことにちょうど「鳴釜神事」の真っ最中。
この神事の間は吉兆を占ってもらっている人と神主・巫女（阿曽媛）鹿は要れず、また　お釜殿の内部は撮影禁止である。
興味心身で入り口で神主が祝詞をあげるのを聞きながら待つ。

お釜殿　鳴釜神事で祝詞を奏上する神主さん　　2010. 1. 15.

撮影禁止で撮影できなかったので、右写真はお釜殿前に掲示されていた写真から採らせていただきました



御釜殿鳴動神事の由来

社伝によれば御祭神に退治せられた鬼「温羅」を祀る処と伝えられる。縁起によると或夜、吉備津彦命の御夢に温羅の霊が現われて「吾が妻阿曽郷の祝の娘阿曽媛をして ミコトの釜殿の神饌を炊かしめよ吾一世の中に事あらば釜の前に参り給はば幸あれば裕かに鳴り禍あれば荒らかに鳴らふミコトは世を捨てて後は霊神と現はれ給へ吾が一の使者となりて四民に賞罰を加へむ」と告げた。これ神秘な釜鳴神事のおこりである。今日も「鳴釜の神事」が行われており鳴動の音の大小長短により吉凶禍福を卜するのである。

江戸時代の林道春の「本朝神社考」や上田秋成の雨月物語「吉備津の釜」などに紹介され神秘な神事として天下に有名である。

うずなへる神のひひきに鳴る釜の
音のさやけき　宮ところかな　重胤

御釜殿祈祷一件につき参拝円也

神火授与

吾国では古来より火は神秘なものとして神聖視されて来ました。当御釜殿の火は古くから消える事なく伝わる神火でこの火で各家庭の火を清めると竈を祓い福を招くと伝えられ今日でも特に火を取扱われる人々が火縄にてお持帰りになって居ります。

御釜殿の前にある御釜殿　鳴動神事の由来を示す案内

耳を澄まして祝詞奏上を聞いていると　突然「ビ～　ビ～　ビ～　」とお釜殿の中から音が聞こえだしました。

よもや・・・と本当に半信半疑でしたが、本当にびっくり。

周りの人に知らせてあげるとみんな半信半疑で聞き入っている。

本当にお釜が鳴るのです。（正確にはお釜の上で濛々と湯気をあげている蒸篭かもしれません）

そして　しばらくして　音が鳴り止み鳴釜神事は完了。

今も「温羅」が唸っているのか?? そんなことはない。これは何か仕掛けがある・・・と。神事が終わって出てこられた神主さんに学生が内容を聞いているが、由来の話へ・・・

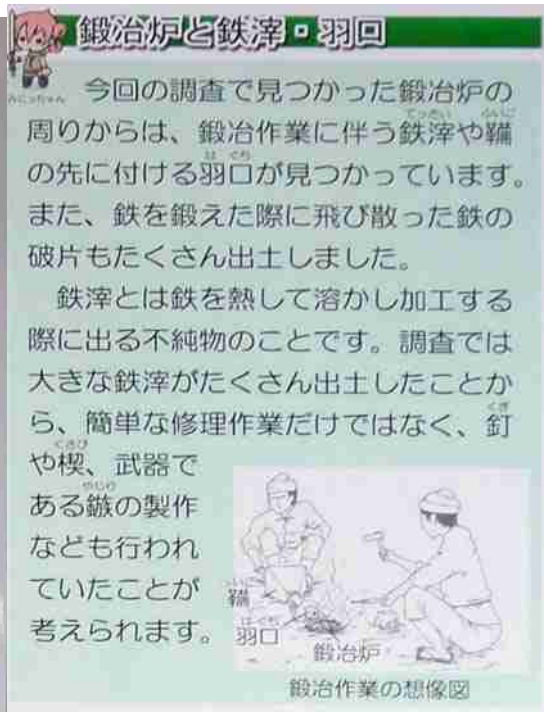
入り口で熱心に覗き込んでいる私を見ていて、お釜殿の中に残っていた巫女の婆さんに
「どうしてなるのですか???　また　何かすると鳴り止むのですか・・」と聞くと
「神主さんの祝詞奏上のころあいに　祝詞に合わせ　蒸篭の上に「玄米」を撒くと鳴りだし、
しばらく鳴って鳴り止みます。
しかし、毎度毎度、その音の響きは大きかったり、小さかったり。　時には鳴らぬときも。
その唸りの音で吉凶を自分でえらなうのです」という。

なんか　油紙が蒸気で振動して　玄米が踊るのだろうか　それなら　自然には止まらない。
でも　「本当にメカニズムを知らず　音を聞いて　自分で吉凶を判断する」というのがいいですね。
「温羅」が唸っているのでしょうか・・・・
後日談ですが、家に帰ってインターネットなど調べると原理は「レイケ管」というらしい。
ほんとうかどうか　缶ビール３本呑んでつなぎ合わせてちょっと細工すれば
再現できるそうなので、実験して agree したらお知らせします。
「温羅」が唸るのを聞けた。　今日はこれが一番の収穫。
興味津々だった鳴釜神事と鬼の怨念の唸りに一歩近づきました。

吉備津神社の境内を西へ出たところが、吉備の中山への登り口。車道が吉備の中山の反対東側の吉備津彦神社の方へ通じている。車道とほぼ平行して途中まで谷川沿いを歩くと本当に静かな散歩道を抜けて車道へ。
人も車もほとんどなく緑の木々の中を１５分ほどゆっくり登ると山の鞍部。右に御陵への道・左の鞍部に吉備古代文化財センター-で、そのまま文化財センターへ。

吉備の中山の登り口　道は東へ山を越えて吉備津彦神社へ　　道のほぼ最高点周辺　左に御陵への登り口を分ける

吉備古代文化財センターは吉備の文化財の発掘調査・研究の中心的な存在で、岡山県の製鉄遺跡・古墳などの資料をみせてもらたり、展示を見に訪れたことがある。今回の鬼ノ城鍛冶工房跡の発掘もここが手がけ、出土した製鉄遺物を今月中展示している。
何か新しいものがあるかとも思いましたが、鉄滓と鍛冶炉羽口が少し展示してあるだけの小展示でした。
　でも　朝鮮式山城であるが公式の記録がなく鬼ノ城の性格がはっきりしない中　大規模な鉄器製造の鍛冶工房を城内に持っていたことを考えると、やっぱり　７世紀　白村江の戦いで敗れ、唐の侵攻に備えた大和の国家的な城だったのだろう。



発掘の様子　　羽口の残る鍛冶炉

吉備古代文化財センターに展示されていた鬼ノ城　鍛冶工房跡で発掘された遺物　2010.1.15.

学芸員の方に現地説明の資料をもらうとともに、鍛冶工房遺跡跡の位置を教えてもらった。
やっぱり　埋め戻されているが、鬼ノ城東門のすぐ上で、城壁回遊路から見られることがわかりました。
また一番心配だった鬼ノ城からまっすぐ奥坂製鉄遺跡群のある直下の阿曽の郷への道についても、登りはきついので進めないが、東門から崖道であるが、しっかりした道が郷までついていると。
これで決まり。はじめ　山の東側　阿曽の里から登るほうが効率がいいと思いましたが、足守川沿いを歩いて　どこかでタクシーを呼んで　西側の鬼ノ城の西側のビジターセンターから登り、阿曽の郷へ降りようと。
吉備津から吉備線で服部駅まで途中カットすれば　楽勝なのですが、やっぱりのんびり郷歩きもしたいと。
まあ　どないかなるやろうといつものwalk。　ちょっと下って　御陵の登り口へ
御陵は東側の山の頂上部にあって、延々と階段が続き、上りきった尾根の上に御陵がある。
吉備津彦の墓との説があるため、宮内庁が管理していて、山の上よく整備管理されている。

御陵へ登る階段

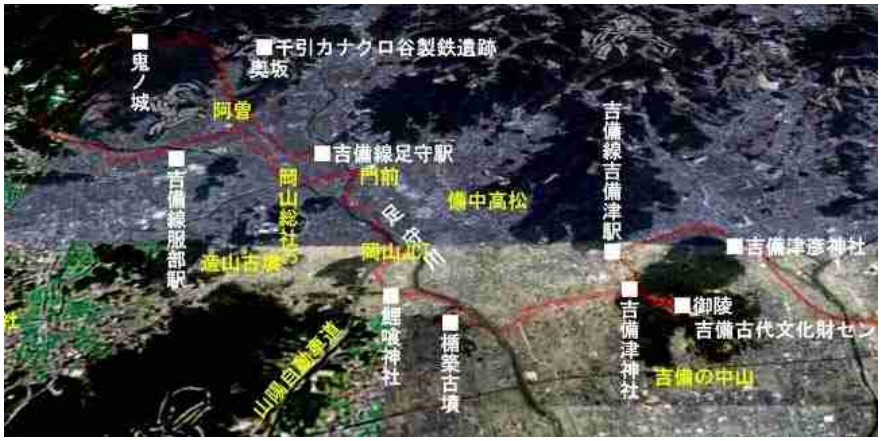
階段を上りきった尾根の上に御陵がある

御陵からもと来た道を吉備津神社の横まで下り、北の吉備線吉備津駅の方には行かずに吉備路・総社へのサイクリングロードを吉備の中山に沿って西へ集落を抜けると一編に広大な田園地帯に出る。　山がない平地　おそらく昔は海か湿地が広がる海岸地帯だったのだろう。田圃の中をまっすぐ西へ足守川へ向かう。
鬼ノ城で敗れた温羅が血吸川の川筋へ逃げ、さらに鯉となって逃げた下流の足守川である。また　温羅と戦う吉備津彦がこの中山に陣を引き、西の足守川の際に石の楯を築いたとの伝承が残るのが楯築遺跡である。
この楯築遺跡は大和が前方後円墳を築く先駆けモデルとなったと考えられる遺跡で川岸の丘に巨大な石がいくつも残っている。

吉備の中山の西には　足守川まで広大な田園地帯が広がり、振り返ると吉備の中山　鬼の城はずっと北の方である

2. 足守川の土手を北へ鬼ノ城へ向かって walk

吉備の中山の西の田園地帯から鬼城山を眺める　随分向こうにみえる　2010.1.15.



誰も居ない田園の中を西にぶらぶら歩いて足守川へ向かう。ぶらぶら田圃の中　さえぎるものがないので随分冷たい風が吹く。また、地図ではたいしたことはないと思っていましたが、鬼ノ城の山並みはずいぶん向こう。これは遠いなあ・・・・・と。

30 分ほどで北の鬼城山から流れる血吸川を合流して、南に流れ下ってきた足守川の日畑橋に出る。次の目標はここから足守川を北にさかのぼって、鯉となって血吸川から足守川に逃げ下ってきた温羅が鵜となって追ってきた吉備津彦に捕まって退治されたという鯉喰神社。　そこからさらにまっすぐ川沿い北に行けば鬼ノ城である。

上流側すぐ西側に楯築遺跡の森がみえるが、今日は土手を下りて、楯築遺跡に入ってゆく時間はなさそう。

吉備と大和の前方後円墳を結びつけることは知っていましたが、温羅の伝説に登場しているとは頭にありませんでした。　随分奇妙な巨岩が古墳の上にあり、面白い遺跡とは思っていましたが、吉備の中山に陣を引いた吉備津彦が楯として築いた場所。楯築遺跡の名はこれと気がつく。　川を挟んで吉備の中山はすぐ向こう。北には遠く鬼城山が見える。時間は１時過ぎ。　鬼ノ城　そして阿曽・奥畑に行くには急がないと。

少し北に進んで、吉備の中山と鬼城山を足守川を入れてとり、先に進むことにする.

足守川　日畑橋より北　鬼城山を望む　左手の森が楯築遺跡
20101.15.

楯築遺跡の北周辺　足守川土手より　東側　吉備の中山　　2010.1.15.

山並みの中央部　稜線のすぐ下にぽつんと白い線が見えるのが鬼ノ城

楯築遺跡の北周辺　足守川土手より　北側　鬼城山　2010.1.15.

ほとんど車も通らず、気楽な散歩。　鯉喰神社はすぐ北側の橋の向こうの丘のあたりである。

サイクリングロードの標識が濃喰神社の近いことを示してくれる。　向こうに見える橋矢部橋を渡ってすぐに土手を降りて集落に入る。両側に家が立ち並ぶ間を抜けると小さな神社がかぎ状の道の右手に見えた。これが鯉喰神社。そして　道はこの神社の横を通り、集落を抜けてゆくのですが、地図を見る山陽道の表記がある。吉備の中山から山陽道が西へどう続いていたのか判らぬが、吉備線が通る北の山すそをグルリと弧を描くのが海岸線だったのだろうか・・・・そうすると今通ってきた広大な田圃は海・そして芦原だったのか・・・。

正面土手の下　鯉喰神社のある矢部集落　2010.1.15.

この干拓にも奥坂の鉄が使われたのか??? 勝手な想像を膨らませながら、鯉喰神社の由来の案内板を眺める。やっぱり伝説の残る古い土地なのである。

矢部の集落の中　鯉喰神社前を足守川土手から西へ抜けてゆく旧山陽道???　2010.1.15.

鯉となって足守川を逃げ下ってきた温羅が捕食された伝承の地　鯉喰神社　20101.15.

１時３０分を回って、もうタイムリミット。このまま歩くと鬼ノ城の鍛冶工房跡から奥坂へ下れなくなる。タクシが呼べるところがないかと土手を歩きながら探す。どうも　やっぱり吉備線の備中高松か足守駅の方へ行かないとその便がないらしい。このまま足守へ急ごうと川沿いを急ぎ足。

足守川の川傍でループを描く山陽道の岡山 JCT の高架橋をくぐるがまだ遠い。集落もなく国道１８０号線が走る川の東側にトラバースして、足守駅を目指す。

正面に川を渡る国道１８０号線が見え、右手に国道筋に店舗がたっているのか見え、地図から門前の集落とわかる。

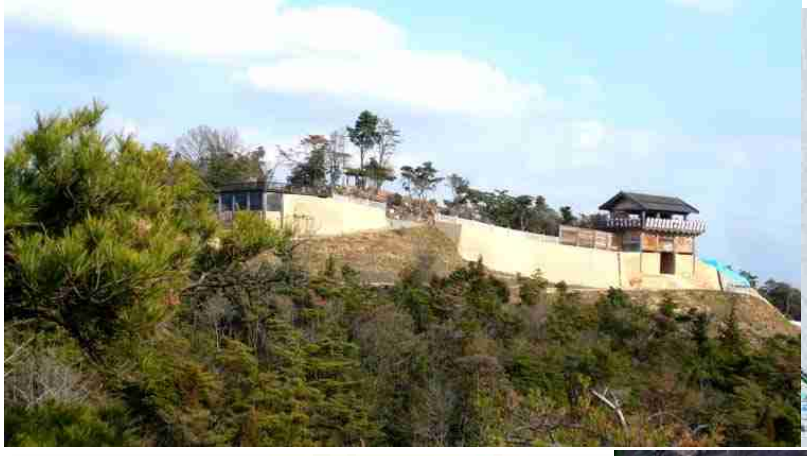
ちょうど２時　橋のところで右手の国道へ折れ、大きなガソリンのサービスステイションに飛び込みタクシーを呼んでもらった。〔帰りに足守駅から吉備線にのりましたが、集落のはずれの田圃の中の駅で good な選択でした。〕

サービスステイションの人と談笑して一息入れる。　時間があれば、そのまま鬼ノ城へ歩こうと思っいたというとまだ１・2 時間では行けぬと笑われた。

タクシーに乗り継いだ岡山市北区門前地区周辺

やれやれで、こちらからは鬼城山裾をぐるりと向こう側へ出て、谷筋を鬼城山の８合目のビジターセンタまでタクシで登って鬼ノ城をめぐる。

3.　７世紀　唐の侵攻に備えた朝鮮式山城　鬼ノ城　＆ 鬼ノ城鍛冶工房跡を訪ねる



足守駅の南側　門前からタクシーで鬼城山の南側がらぐるりと西側の谷筋に回りこんで、山の８合目ビジターセンターのある鬼ノ城西門への入り口まで約２０分ほどで運んでもらった。鬼ノ城へは数度上って来たことがあるのですが、もう１０年ほど前。それから発掘調査ならびに鬼ノ城諸施設の復元整備が進んでいると聞くので楽しみ。

午後２時半。この時間ならゆっくり鬼ノ城を歩いて鍛冶工房跡を見学してから吉備古代の製鉄の中心地だった東の奥坂へ下れる。

鬼ノ城への西側からの登り口　鬼ノ城ビジターセンタと西門への登り道

ビジターセンターへ行って一番心配だった東へ下る道を再度教えてもらい、今回ぜひ見ておきたい鍛冶工房跡の位置を確認する。

鬼ノ城は眼下に古代吉備の中心地総社平野を見下ろす高さ約 400m の険しい山腹を持つ鬼城山の８合目周辺を鉢巻状に土塁や石垣で取り囲んだ山城。城壁の長さは約 2.8km 囲まれた城内約 30.6ha。城壁の東西南北４ケ所には城門があり、雨水を場外へ排出するための水門が６ケ所もうけられ、城内の中心部には礎石建物が７棟確認され、東門の上の小さな谷筋には鍛冶炉１１ケ所が発掘されている鍛冶工房が確認されている。

山を鉢巻状に土塁や石垣で取り囲み、内部に建物を配置する構造は古代朝鮮半島の様式を色濃く持っており、663 年の白村江の敗戦後, 朝鮮からの来襲をおそれた日本政権が国土防衛のため亡命百済人の指導で築造した朝鮮様式の山城とみられている。

しかし、公式的な記録はなく、この山城の正確については不明な点が多いが、今回大規模な鉄器製作鍛冶工房が城内にあったことから、やっぱり白村江で破れた大和が唐の国内侵攻を恐れて築城した山城の性格が強い。
また、「鬼ノ城」の名が示すとおり、山城が築かれる前から険しい山であるこの地は要害の地として、「温羅」の城であったとの伝承が残る。　この山の東山麓は急峻な崖に鳴っているがその麓　奥坂は「真金吹く吉備」の古代製鉄の中心地で渡来の製鉄鍛冶集団が居た場所。この奥坂で作られた鉄が山の上の鍛冶工房で鉄器に加工されたのかも知れぬ。
鬼ノ城と古代吉備の製鉄の中心　奥坂を結ぶ鬼ノ城鍛冶工房の出土であり、「鬼・温羅」にされたこの奥坂の製鉄集団の重要性が温羅伝説ばかりでなく現実味を帯びて浮かび上がってきたといえる。
　そんな奥坂製鉄遺跡群の中に日本最古の千引カナクロ谷製鉄遺跡がある。今は鬼ノ城GCの池の中に眠っているというが、どんなところなのか知らなかった場所。今回はぜひ見下ろせる鬼ノ城からその場所を確認したい。

登り始めてすぐのところを南へ折れると鬼ノ城の外観や眼下に広がる総社平野が一望できる展望台が整備されていて、ここからは復元された西門がよく見える。
遠く総社の街から山の上に見えていた西門が本当に天然の要塞急峻な崖の上に建っているのがよく判る。
じっと時代を下った城郭の石垣と見間違うようなしっかりした石垣の上に楼閣が載った西門。これが朝鮮からの渡来人たちの技術。また、この石の切り出し、山の上で組み立てるには本当に数多くの鉄製工具が使われたに違いない。
大和・飛鳥のイメージからすると本当にかけ離れた技術のレベルにびっくりする。
タクシーで登ってくると何のありがたみもないが、こうしてみるといまさらながら総社平野を見下ろす鉄壁の要塞だと。

鍵岩展望台からの鬼ノ城概観と総社平野展望　　2010.1.15.

　元の道にもどって、良く整備された遊歩道を少し登るといよいよ鬼ノ城の西側城壁である。
まもなく分岐になり、左手に登る道には四角の石組みの上に板囲いされた建物。　まっすぐ前方には西門の大きな楼閣が見える。
西門の方へ行けば、城壁を南側からめぐる道　左手を執れば鬼ノ城の上方の中心部や北の城壁をめぐる道。　今回は南側から東門へめぐりたいが、復元された四角い板囲いの建物と石組のすばらしさに興味深々でまずそこへ行く。

鬼ノ城西南側角の城壁にある左:角楼と　右:　西門　　2010.1.15.

角楼跡

日本の古代山城では、初めて具体的に確認された特殊な施設です。中国の城郭でいう「馬面」、朝鮮半島での「雉」に当たります。

ここは、尾根つづきで攻められやすいため、城壁の死角を補い防御力を高めることを目的として、城壁の一部を長方形(15×4m)に張り出しています。

角楼の下半部は、両側の石垣と同じように石垣積みで、ほぼ4m間隔で一辺50cmの6本の角柱が石垣の間に建っていたことがわかりました。また城内側には、この施設への昇降のための石段も設けられています。

しかし、この上に建物などがあったかどうかは不明です。

最高所の鬼城山・西門と一体となって、強固な防御ゾーンを形成しています。

角 楼 跡

かつてここには，裏門的な門跡の存在が推定されていたが，平成8年度の発掘調査で城門ではなく，特殊な遺構であることが判明。

ここは，南北両方から入り込んだ谷の頭部にあたる背面側の要地で，正面側約13m，奥行側約4mが前方へ突出した長方形の張り出し部が，城壁に付設されている。

張り出し部の下部は，推定高さ約3mの石垣とし，その上部は土積みであったようで，張り出し部の本来の高さは約5m以上と推定される。石垣の間にはほぼ4m間隔で，一辺約50cm の角柱が立つ。

張り出し部の外側には，通路のような幅1．5mの敷石が巡っており，また，城内側には角楼への昇降のための石段もつけられている。

張り出し部をもつこの遺構＝角楼は，背面からの攻撃に備えるとともに西門防備をも意図した重要な防御施設と考えられる。なお，角楼の存在，石垣の間に立つ柱，敷石が巡っていることは，日本の古代山城では初の発見例である。

総社市　案内より

【　復元された西門　】

復元された西門　　2010. 1. 15.

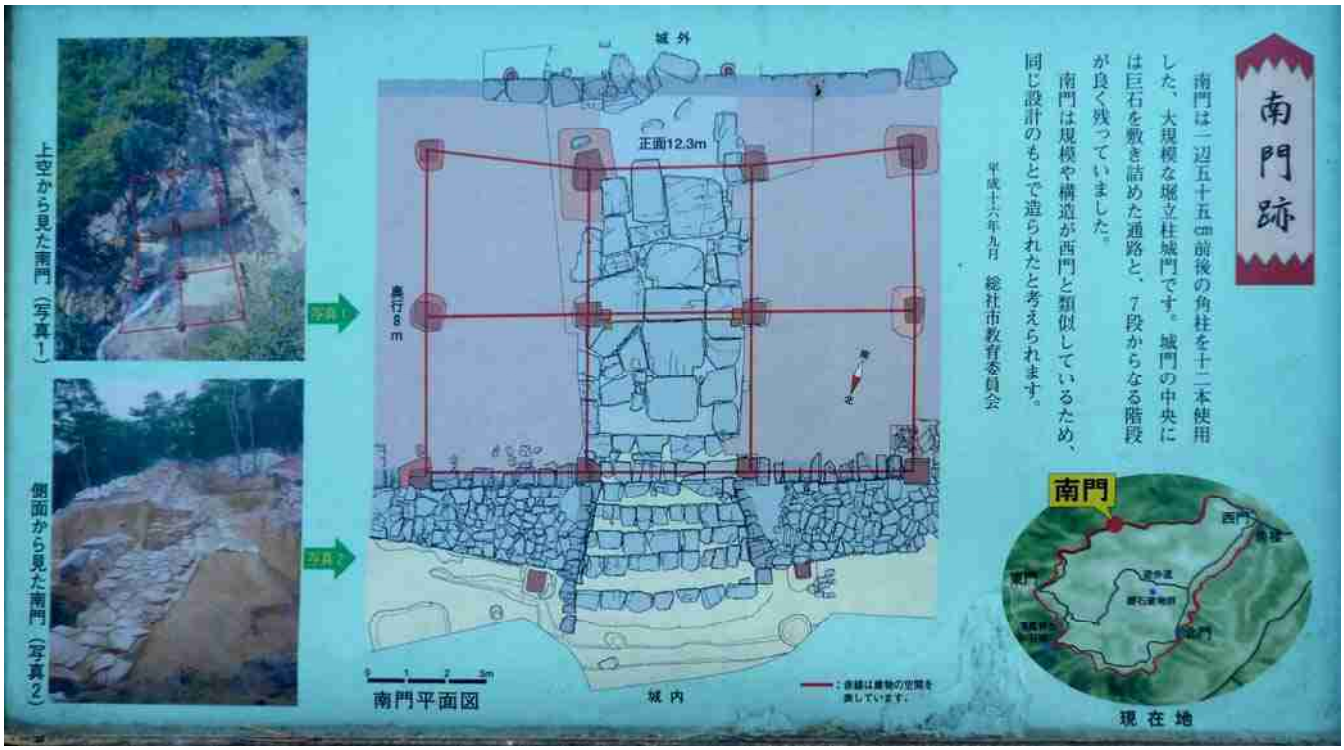
古代というと木造建築をイメージするのですが、渡来人の手を借りたとはいえ、日本にもこんな強固な石造建築物があったことにびっくりである。

西門に続く城壁は土塁で表面にはびっしり四角の切石が敷きつめられ、城壁の下には城壁に沿って敷石が敷かれた道が続いている。眼下には今日歩いてきた足守川沿いの総社平野が遠望できる。

西門からこの敷石が敷き詰められた道の端のところから城壁の南側をめぐる道となり、東門へ向かう。
記憶にある山道からは本当によく整備された道が城壁をめぐっている。

山の南側をめぐる城壁沿いの道が山腹を巡る　　2010.1.15.

鬼ノ城　南門　　2010.1.15.



南側山腹をめぐる城壁　第三水門周辺　　2010. 1. 1

南側城壁の最南部突出部　眼下に　鬼ノ城の東側　奥畑のゴルフ場が見え出す　2010. 1. 15.

「屏風折れの石垣」

東門周辺

突出部より　東側を巡る城壁　　上方に「屏風折れの石垣」　右手に東門が見える　　2010.1.15.

突出部を回り込んだところの大きな岩に刻まれた観音様「岩切観音」　　2010.1.15.

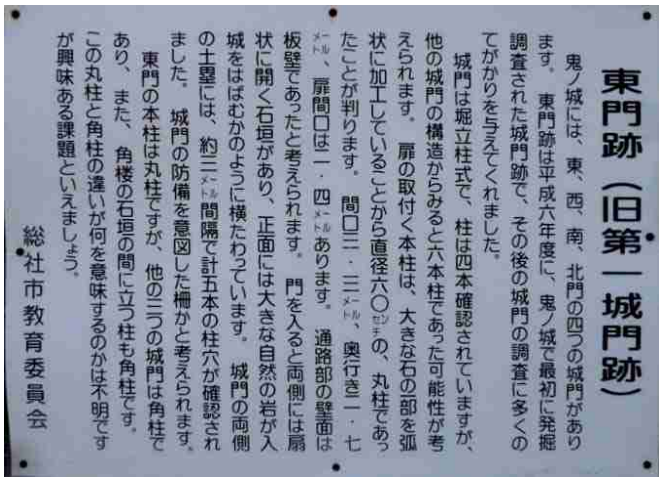
岩切観音を過ぎるとすぐのところに左手へ城の中心部へ登ってゆく道と城壁を巡る道との分岐点。
城壁をめぐる道はちょっと降り道となって東門へ向かう。
降りきったところが小さな谷になっていて、ここにも水門がある。この水門から続くなだらかな登り道の向こうが平坦な突端部になっているのが見え出し、そこが東門のある突端部だった。
西門からぶらぶら城壁の南側を巡って　３０分ほどで東門にいたった。多少上り下りがあるが、よく整備された回遊路なのでほとんど平坦地を歩いている感じである。
　東門からはこの鬼ノ城の東山麓に広がる奥畑・阿曽の集落が手に執るように見える。また、鍛冶工房遺跡はこの東門の上方に延びる尾根一帯に広がっていたという。突端をくるりと先に回ればそこから　今はもう埋め戻されているというが鍛冶工房跡が見えると聞いた。　また　眼下に広がる奥畑一帯は古代の製鉄地帯　ぜひ　日本最古の製鉄遺跡である千引カナクロ谷製鉄遺跡の場所をここから特定したい。

北の城内中心部へ登る道と城壁をめぐる道との分岐　　2010.1.15.

南側城壁　第四水門　　東門のある突端が見えてくる

鬼ノ城　東門跡　2010.1.15.

鬼ノ城　東門　　眼下に広がるゴルフ場周辺が奥坂　古代吉備の中心的製鉄地帯である



東門跡（旧第一城門跡）

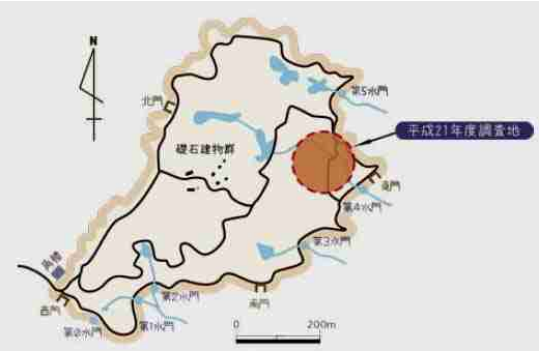
鬼ノ城には、東、西、南、北門の四つの城門があります。東門跡は平成六年度に、鬼ノ城で最初に発掘調査された城門跡で、その後の城門の調査に多くのてがかりを与えてくれました。

城門は掘立柱式で、柱は四本確認されていますが、他の城門の構造からみると六本柱であった可能性が考えられます。扉の取付く本柱は、大きな石の部を弧状に加工していることから直径六〇センチの、丸柱であったことが判ります。間口三・三メートル、奥行き三・七メートル、扉間口は一・四メートルあります。通路部の壁面は板壁であったと考えられます。門を入ると両側には扇状に開く石垣があり、正面には大きな自然の岩が入城をはばむかのように横たわっています。城門の両側の土塁には、約三メートル間隔で計五本の柱穴が確認されました。城門の防備を意図した柵かと考えられます。

東門の本柱は丸柱ですが、他の三つの城門は角柱であり、また、角楼の石垣の間に立つ柱も角柱です。この丸柱と角柱の違いが何を意味するのかは不明ですが興味ある課題といえましょう。

総社市教育委員会

●　鬼ノ城の鍛冶工房跡



今回出土した鬼ノ城の鍛冶工房の位置は吉備古代文化財センターやビジターセンタで確認してきたが、東門から上へ伸びる小さな尾根筋に沿って損ざし、３箇所が発掘され、１１基の鍛冶炉と羽口や大量の鉄滓・砥石・土器などが出土。７世紀の鬼ノ城鍛冶工房である。「東門から突端部をくるりと回り込んだところまですすめば、中に入れないが、すでに埋め戻された鍛冶工房跡が見られる」と教えてもらったが、そのとおり、道の向こう左手に立ち入り禁止の綱が張られた日細長い平地が林の中に納まっていました。ちょうど東門からまっすぐ上に上った尾根筋である。

突端を左へ曲がってすこしすすむとロープが張られた場所が左手に見え、それが鍛冶工房跡でした

立ち入り禁止のロープのところから見た鍛冶工房跡　左手　南の東門側から右手北の小さな尾根筋南北に広がっている

立ち入り禁止のロープのところから見た鍛冶工房跡　全景　　2010.1.15.

埋め戻された遺跡跡の周囲にロープが張られていて中に入れないので詳しいことは良くわからないが、雑木林の向こう側がすいて見え、向こう側が小さな谷になっていて南から東へなだらかなスロープで尾根筋に鍛冶工房があったようだ。
教えてもらったマップにはさらにこの尾根筋の上方にも鍛冶工房跡があるようですが、そこへは行かずでした。
この位置は東門の真上に当たるので、東門へ戻って東門の真上の大きい岩を登って、雑木林に入ると縦にこの鍛冶工房跡を縦に見られました。

南側の端からみた鍛冶工房跡　　2010.1.15.

時間切れで今日は鍛冶工房跡が見られるだろうかとちょっとあせりましたが、鬼ノ城の鍛冶工房跡が見られて満足。
東門の上の巨岩の上にどっかり座って、眼下に広がる奥坂・阿曽の郷を眺めながら、インターネットで採取したこの鍛冶工房遺跡の発掘の様子や発掘現地説明会の資料をもう一度眺める。

東門の真上から眺める奥坂・朝の郷　　2010. 1. 15.

見降ろす奥坂は吉備の古代製鉄の中心地。　この奥坂で作られた鉄がこの鍛冶工房で鉄器に加工されたのだろう。
663 年朝鮮半島白村江の戦いに敗れた大和が唐の侵攻を恐れ、この巨大な山城をつくり、戦いに備えた。
この巨大な山城の石組みや城壁をみると巨大な石の切り出し・加工などこの城の建設には多数の鉄の工具の調達なくしては成し遂げられなかったろう。　また、唐の侵攻に備えた鉄器もこの鍛冶工房で準備したのだろう。
この山城には諸説があるが、城内に大規模な鍛冶工房をそなえてきたてことは、この城が当時大和の最大の敵　唐への備えであったように思う。
また、鉄の需要も急激に高まり、６世紀にはじまる日本の製鉄もその品質・安定増産が大きな課題になっていたに違いない。
そんな時代の要請に　奥坂はじめ「真金吹く吉備」の製鉄は十分に答えられたのだろうか・・・・
唐の侵攻におびえた大和は北九州からから瀬戸内沿岸に大規模な土塁・山城を張り巡らし、近江の勢田丘陵や九州福岡の元岡には、大型の量産型製鉄炉が立ち並ぶ大製鉄コンビナートを作り上げて行く。
吉備の「鬼ノ城」もこんな大和政権の動きに組み込まれた山城・鍛冶工房だったのだろうと思いをめぐらす。
鬼ノ城鍛冶工房跡発掘の状況については、下記　吉備古代文化財センターのホームページに生のデータとして掲載されているので、そちらを参考にされたし。
また、吉備古代文化財センターのホームページなどから採取した記事をベースに下記にその概要を整理転記しましたので、参考にしてください。

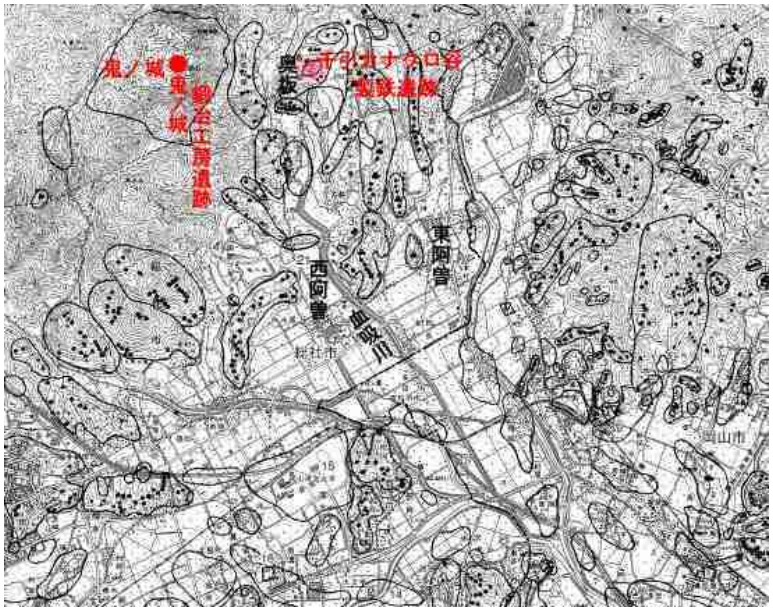
○　古代の山城　「鬼ノ城」で鍛冶炉跡が６基出土　　大規模にこの山城で鉄器生産か

７世紀後半 663 年 朝鮮半島白村江の戦いでの敗北から、唐・新羅の連合軍の本土侵攻する備えか

岡山県古代吉備文化財センター ホームページ ほかより整理

●　古代日本最古の製鉄遺跡　千引カナクロ谷製鉄遺跡の位置を眺める

今回　鬼ノ城へ登るもうひとつの楽しみは日本最古の製鉄遺跡「千引カナクロ谷製鉄遺跡」の場所の特定。　なんといっても現在　発掘調査された日本最古　６世紀の製鉄炉が確認された遺跡である。
鬼ノ城東山麓の奥坂に広がる鬼ノ城 GC の中にある調整池の底に眠っているとは聞くのですが、どんなところなのか知りませんでした。
鬼ノ城からは眼下に奥坂・阿曽の郷が一望できるので、その特定ができる。
頼りは線引カナクロ谷製鉄遺跡の位置が帰されているのを見つけた総社市の周辺遺跡地図。
吉備線服部駅の南にある総社市埋蔵文化財学習の館にゆけば、千引カナクロ谷製鉄遺跡の模型などが展示されていて情報が得られると聞くのですが、今回も訪ねられなかったので、この遺跡図だけが頼り。
　東門の横に座り込んで、現在の地図と遺跡図そして磁石を並べる。　奥坂はゴルフ場の真っ只中。そして　いくつも池が見えるのでどれだろうか・・・本当に東門の真正面　ゴルフ場のど真ん中の池が千引カナクロ谷遺跡でした。
幾条にも南北に並ぶゴルフコースから想像すると幾重もの小さな尾根筋が並び、その尾根筋で古代点々と製鉄が始められたに違いない。
　温羅の伝説・朝鮮式鬼ノ城など朝鮮半島の影響が色濃く残る奥畑の製鉄遺跡。やっぱり　朝鮮半島の渡来の集団なのかもしれない。その原料が鉄鉱石であることもその痕跡かも知れぬ。



やっと　出会えた日本最古の製鉄遺跡　千引カナクロ谷製鉄遺跡である。

千引カナクロ谷製鉄遺跡については　光永真一著　吉備考古ライブラリー・10　「たたら製鉄」に記述されているので参考にされたし。また、上記資料などより整理転記して、下記資料に概要を取りまとめましたのでご参照ください。

○　奥坂製鉄遺跡群　千引カナクロ谷製鉄遺跡

「現在出土している日本最古後半の製鉄炉がある千引カナクロ谷製鉄遺跡」

光永真一著　吉備考古ライブラリー・10　「たたら製鉄」より　整理転記

15 時 30 分　東門から先に見えている屏風折れ石垣の展望台の方まで行きたいのですが、東門から東の奥坂へまっすぐ切れ落ちている崖の登山道を下りたいので時間切れ。東門の突端部にある阿弥陀原登山道の道標の矢印に従って崖を下る。

4. 古代の製鉄地帯　奥坂・阿曽に下って　血吸川に沿って足守駅へ

東門の突端部の先端のところに阿弥陀原登山道の矢印あり、下方の崖に急降下の道がついている。

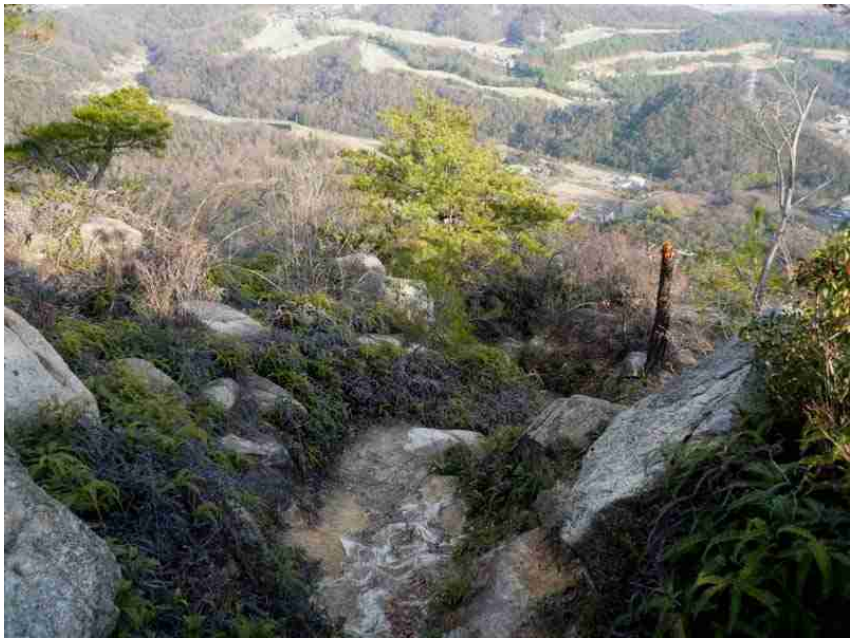
城壁の下へ降ってゆくのだから当たり前なのですが、東門のある急勾配の尾根筋。

ビジターセンターでもらった地図では 7 分ほどで山麓の奥阪・阿弥陀原に下れると帰されているが、若者でもそれはない。

なんせ　ハンググライターの飛び出し口といったところをまっすぐ下ってゆく。

正面に千引カナクロ谷が眠る鬼ノ城 GC の池が真正面。鬼ノ城が築かれた時代にもこの道は隠れ道として存在したのだろうか・・・。

そんなに長い時間ではありませんが急降下の道が続き、慎重に足場を確認しながら下ってゆく。



鬼ノ城東門から阿弥陀原・奥畑へつづく登山道の降り　2010. 1. 15.

左手には急峻な崖の上に続く鬼ノ城の城壁が見える

南側には　足守川が流れ下る総社平野

阿弥陀原登山道から見える血吸川が流れ下る奥畑・阿曽の郷　2010.1.15.

10 分ちょっと崖を下りきると道はやっと緩やかになり、はやしのなかをくだって、30 分ほどで、麓の阿弥陀原の T 字路に出る。北へ行くと鬼城山の北側を巻いて岩屋集落へ右手の南へ行くと奥坂休憩所から阿曽の郷血吸川沿いに出る道である。

崖道を下りきるとなだらかなくだりとなって　まもなく阿弥陀原の郷道との T 字路

鬼ノ城の東門から30分ほどで展望が利く広場奥坂の休憩所に到着。
今降りてきた鬼ノ城が集落の後ろにそびえている．この郷からみると本当に鬼ノ城がこの奥坂の郷を守る砦であるとの感じがする。
冬の夕暮れは早い。ここから温羅が逃げ下ったという血吸川の流域へ出て、流れに沿って吉備線足守駅まで1時間ちょっとあるかねばならない。
地図を広げると　鬼ノ城野山の反対東側の雑木林に包まれた小高い丘が古代奥坂製鉄遺跡群のある鬼ノ城 GC であるが、こちらからは行けない。ちょっと下ると血吸川画流れ下る平地部の里に出られ、そこから奥坂全体の姿が眺められるだろう。

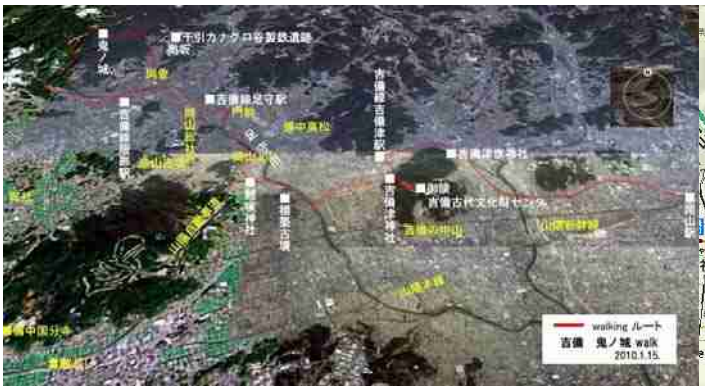
奥坂の郷にある鬼ノ城への登山口　奥坂休憩所　　201010.1.15.

血吸川の土手から奥坂の集落を眺める
2010.1.15.

血吸川の土手から奥坂の集落を眺める　　右端　奥に古代奥坂製鉄遺跡群が眠る　2010.1.15.

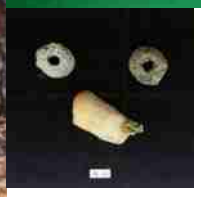
血吸川の土手に沿って足守駅ちかくまでくるともうすっかり夕暮れ。西に夕日が沈むのが見られました。
夕日を眺めながら　一日をふりかえりつつ足守駅へ
18時6分初の吉備線岡山行きで帰路に着く。　満足の吉備鬼の痕跡をたどる鬼ノ城walkでした。

5.　桃太郎伝説の吉備路 walk　「鬼ノ城」を訪ねる　　総括



「桃太郎説話の鬼・温羅」の城との伝承があり、また、7 世紀　百済救援のため、朝鮮半島白村江の戦いで破れた大和王権が唐の日本侵攻を恐れて築いた古代の山城と見られる吉備　総社の街の背後にそびえる鬼城山「鬼ノ城」の山上の城内から大規模な鍛冶工房が出土したと聞いて、桃太郎説話のルーツ温羅伝承の痕跡をたどりながら、一日吉備路を歩きました。
温羅伝承の背景には「真金吹く吉備の中山」と歌われた古代の大製鉄地帯「吉備の鉄」を巡る争いがあるとの説もあり、「鬼ノ城」の直下　東山麓の奥畑・阿曽の郷は古代　吉備の製鉄地帯の中心地。　ここからは　6 世紀後半　日本最古の製鉄炉が出土した千引カナクロ谷製鉄遺跡が眠っている。
　以前に何度か吉備・鬼ノ城を訪れたことがあるのですが、発掘調査が進み、城内の諸施設が復元整備された鬼ノ城を見るのは初めて。また、鬼ノ城と直下にある古代の奥畑製鉄遺跡群の関係も知りたいし、奥畑・阿曽の郷にも足を踏み入れたいと。ちょっと欲張りな吉備路 walk なのですが、温羅伝承の痕跡をたどりながら、吉備津神社のある吉備の中山から足守川・血吸川沿いを鬼ノ城まで歩きました。
よく知っているつもりでしたが、やっぱり歩くと新しい発見ばかりで　本当にびっくり。

吉備の鬼と古代製鉄の関係は知っていましたが、あの巨大な石組みが山上に続く山城とその城内の大規模な鍛冶工房とそのすぐ麓に広がる製鉄地帯をみると　古代大和政権にとって　吉備が本当に重要拠点であったことが、いまさらなら実感されました。そして、位置関係が良くわからなかった日本最古の製鉄遺跡　千引カナクロ谷製鉄遺跡の位置が確認できたことも収穫。



鬼ノ城・城内の鍛冶工房跡と出土した羽口・鉄滓

また、びっくりしたのは今回　初めて　そばに居て見ることができた吉備津神社お釜殿の「鳴釜神事」。
退治された温羅が埋められたお釜殿の下で13年間も唸り続け、退治した吉備津彦の夢に現れ、「わが妻・阿曽媛にお釜殿の火を炊かせば釜を唸らせて世の吉凶を占おう」といい、そのお告げの通りにすると唸り声も治まり平和が訪れたという伝承にルーツを持つ。　お釜殿の外に立つ私たちにも聞こえるような大きな釜が唸る音が本当にするのです。そして　少ししたら唸り終わる。　これには　本当にびっくりでした。

また、今回　吉備を歩くのにもう一度　桃太郎説話・温羅伝承を調べて、説話を伝える論調がこの 10 年で微妙に変化しているのにびっくりしました。
岡山では「人を苦しめ　悩ます鬼を退治したヒーロ　桃太郎・吉備津彦」というのが、ほとんどの論調だったのですが、
もうひとつの桃太郎説話・新説桃太郎として　朝鮮半島からやってきて　吉備を豊かにした温羅一族　その富をほしがった大和が、国の支配を狙ってうら一族を滅ぼし、大和に吉備を組み入れ、その後　吉備を治めた吉備津彦も大いに吉備を豊かにしたと紹介し、広くこの説が吉備そして岡山の民衆に広く受け入れられ手居るとする話まである。
随分　論調が変わりました。
製鉄集団など異文化集団の敵として「鬼」として、国を治める鬼伝説や一生懸命地域・人を助けるのですが、最後には裏切られてほりだされる何と桃の悲しい「鬼」伝承がある中、「鬼は自分たちの先祖・誇り」「鬼が村を救った」との民衆伝承も照会避けるようになり、岡山の桃太郎退治も随分変わったように思いました。

まもなく 2 月 3 日「節分」です。　　今年も「福は内　鬼も内」です。

2010.1 月 27 日
桃太郎伝説の吉備路 walk　「鬼ノ城」を訪ねる　をまとめて
By　Mutsu Nakanishi

【添付　整理転記させていただいた資料】

4.　桃太郎説話の元となった「温羅」伝説

おかやま物語・総社市鬼ノ城・吉備津神社& 吉備津彦神社などの home page より整理転記

5.　奥坂製鉄遺跡群　千引カナクロ谷製鉄遺跡

「現在出土している日本最古後半の製鉄炉がある千引カナクロ谷製鉄遺跡」

光永真一著　吉備考古ライブラリー・10　「たたら製鉄」より　整理転記

6.　古代の山城　「鬼ノ城」で鍛冶炉跡が６基出土　　大規模にこの山城で鉄器生産か

７世紀後半 663 年 朝鮮半島白村江の戦いでの敗北から、唐・新羅の連合軍の本土侵攻する備えか

岡山県古代吉備文化財センター ホームページ ほかより整理

【参考　和鉄の道】

- **真金吹く吉備国　吉備の鉄 と桃太郎伝説**　http://buffalonas.com/mutsu//www/dock/iron/jstlbb11.pdf
- **光永真一著　吉備考古ライブラリー・10　「たたら製鉄」**
- **インターネット検索 ： 温羅伝説　，鬼ノ城　ほか**

岡山県古代吉備文化財センター　home page　http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kinojou-top.html
総社市　home page　http://www.city.soja.okayama.jp/kanko/kankochi/kinojo.jsp
おかやま物語のみち　http://www.pref.okayama.jp/doboku/doken/monogatarinomichi/ura/ura_top.htm
吉備津神社　&　吉備津彦神社　home page ほか

2. walk 2010.1.15.

桃太郎説話の元となった「温羅」伝説

おかやま物語　　http://www.pref.okayama.jp/doboku/doken/monogatarinomichi/ura/ura_top.htm
総社市　鬼ノ城　http://www.city.soja.okayama.jp/kanko/kankochi/kinojo.jsp
吉備津神社 &　吉備津彦神社　http://kibitujinja.com/　&　http://www.kibitsuhiko.or.jp/main10.htm
などの home page より整理転記

岡山市西部と総社市東部にまたがる地帯では、昔から桃太郎伝説のルーツともいうべき吉備津彦命の鬼退治にまつわる「温羅（うら）伝説」が語り伝えられている。
総社市鬼の城山にある古代山城・鬼ノ城と、奈良時代に出来た日本最古の歴史書『古事記』・『日本書紀』に見える吉備津彦命が、大和朝廷の命を受けて吉備平定に向かう記述が基になっている。

第 11 代垂仁天皇（４～５世紀、古墳時代）のころ、異国の鬼神が飛行して吉備国にやって来た。彼は百済の王子で温羅といい、足守川の西の方の新山に城を築き、その傍の②岩屋寺に楯を構えた。温羅の姿は恐ろしく、両目はらんらんして虎や狼のごとく、ぼうぼうたるひげは赤く燃えているようであった。さらに身長は一丈四尺もあり極めて狂暴であった。そして遠くを航行する船を襲っては財物や婦女子を略奪し、乗っていた人を釜ゆでにしていたという（③鬼の釜）。人々はこの山を①鬼ノ城と呼ぶようになった。
そこで朝廷は、その温羅を平定するために吉備津彦命を派遣することになり、吉備津彦命はまず吉備の中山に陣を構え（⑦吉備津神社 ⑧吉備津彦神社）、西には石の楯を築いた（⑤楯築遺跡）。　一方　温羅は鬼ノ城に陣取る。

戦いが始まると矢合戦になったが、温羅は強く、双方の矢が空中で噛み合って落ちてしまった（④矢喰宮）。そこで吉備津彦命は２本の矢を一緒に発射したところ、一矢は温羅の目にあたって沢山の血が流れ血吸川（ちすいがわ）となり、浜は真っ赤に染まった（赤浜）。温羅は雉（きじ）となって逃げたが、吉備津彦命は鷹（たか）となって追った。今度は、温羅は鯉となって血吸川に逃げたので、吉備津彦命は鵜となって温羅をくわえ、ついに首をはねた（⑥鯉喰神社）その首は串に刺してさらされた（⑨白山神社）。

しかし首は何年も吠え続けたので、犬飼武命に命じて犬に食わしたが、まだ吠え続けたのである。このため吉備津彦命は吉備津神社の「御釜殿」の下に埋めたが、13 年間も唸り続けたという。

ある夜吉備津彦命の夢に温羅が現れ、「わが妻・阿曽媛にお釜殿の火を炊かせば釜を唸らせてこの釜で世の吉凶を占おう」といった。命はそのお告げの通りにすると、唸り声も治まり平和が訪れた。

これが現在も続く吉備津神社に伝わる「鳴釜神事」の起源で、その後、吉備国の統治にあたった吉備津彦命は、晩年、吉備の中山の麓の茅葺宮に住居を構え、281 歳の長寿をまっとうした。

【参考文献】　あるく岡山桃太郎伝説の旅（岡山市・岡山市観光協会）・岡山三市を結ぶ歴史ロマン主人公ゆかりの地をたずねる旅・図説岡山県の歴史・吉備津彦命の鬼退治・博学紀行岡山県

古代にはこの伝承の舞台となった吉備の中山周辺は海岸線に近く、小高い吉備の中山は神体山と仰がれる。

温羅一族を滅ぼした後　吉備津彦は備中山の麓に茅葺宮を造って住み、吉備を治め、281 歳で亡くなり、中山山頂部にに葬られたという。吉備の中山の山上にある御陵はこの吉備津彦命の墓と伝えられ、宮内庁が管理している。

現在、この吉備の中山の北東山麓と北西山麓に同じ吉備津彦命を祭神とする吉備津彦神社と吉備津神社があるが、いずれの社伝にも吉備津彦の屋敷跡に社殿を造営して吉備津彦を祀ったのが始まりと伝える。

このように二つの神社が近接してあるのは、大化改新の後　吉備国がこの吉備の中山を境とする備前・備中と備後に 3 分割された時に、吉備津神社がそれぞれの国の守り神として分社され、それぞれが国の一宮として信仰を集めてきたためである。

また、吉備津神社の釜殿で今に続く〔鳴釜神事〕このは神官と阿曽女と二人で執り行う神事。

阿曽女というお婆さんは温羅が寵愛した女性と云われているが、鬼の城の麓に阿曽の郷があり代々この阿曽の郷 の娘が奉仕しているという。

阿曽女が釜に水をはり湯を沸かし釜の上にはセイロがのせてあり、常にそのセイロからは湯気があがって いる。

神事が始まると祈願した神札を竈の前に祀り、阿曽女は神官と竈を挟んで向かい合って座り、神官が祝詞を奏上する頃、セイロの中で器にいれた玄米を振ると鬼の唸るような音が鳴り響き、祝詞奏上し終わるころには音が止むという。

この釜からでる音の大小長短により吉凶禍福を判断しますが、そのお答えについては奉仕した神官も阿曽女も何も言わず、自分の心でその音を感じて判断するという。また、この阿曽の郷は昔より鋳物の盛んな村で、お釜殿の大きな釜が壊れたり古くなって交換するのはこの阿曽の郷の鋳物師の役目であり特権でもあった。

この温羅の城「鬼ノ城」の東直下に広がる阿曽の郷の谷間は古代「真金吹く吉備の中山」と歌われた吉備の大製鉄地帯（奥坂製鉄遺跡群）で、今はゴルフ場の池の底になっているが、日本最古　6 世紀の製鉄炉が見つかった千引かなくろ谷製鉄遺跡などが眠っている。
この鬼ノ城・阿曽の郷を中心とした温羅伝説はこの地帯に渡来した製鉄集団の話と言われ、吉備の鉄の支配を目指した大和側の話とする説が一般的である。
一方、岡山では「この温羅一族が鉄器で武器と農工具を作り吉備を開拓して国を豊かにした」とする民間伝承が語り継がれている。「桃太郎が鬼を成敗した」とする大和が作り出した説話とともに民衆にとっては吉備の国に豊かさを作り出した温羅は「鬼」ではなく、親しみのある「吉備の開拓神」とする解釈が「もうひとつの桃太郎」として広く語られるとようになってきた。
「真金吹く吉備の中山」と歌われ、古代の製鉄地帯吉備を象徴する吉備の中山。　そして、鬼ノ城直下　血吸川が流れ下る谷あいに製鉄集団がいて、製鉄を行っていた阿曽の郷。豊かな吉備の地を攻めて、鉄と国を大和の支配化に組み入れたのが吉備津彦であり、そんな古代伝承の痕跡が色々残っている。

古代の正規の歴史書には登場せず、未知の部分が多い鬼ノ城は７世紀の巨大な朝鮮式の山城。
すり鉢を伏せたような形の山で，斜面は急峻だが頂部は平坦である。この山の八合目から九合目にかけて，城壁が２．８km にわたって鉢巻状に巡っている。温羅の伝承は４・５世紀頃の伝承が元と考えられているので、直接的にはずれている。
城壁は，一段一列に並べ置いた列石の上に，土を少しづつ入れてつき固めた版築土塁で，平均幅約７ｍ，推定高は約６ｍもある。
要所には堅固な高い石垣を築いており，その威圧感は天然要害の地であることとあわせ，圧倒的な迫力をもっている。このように，版築土塁や高い石垣で築かれた城壁は，数m～数十mの直線を単位とし，地形に応じて城内外へ「折れ」ていることに特徴がある。

城壁で囲まれた城内は比較的平坦で約３０ヘクタールという広大なもので，出入り口となる城門が４ヶ所にあり、４つの谷を含んで山の周囲を取り囲んでいるため，谷部には排水の必要から水門が６ヶ所に設けられている。城内には，食品貯蔵庫と考えられる礎石建物跡や狼煙場，溜井（水汲み場）もある。この他に城内には貯水池とみられる湿地が数ヶ所ある。
さらに兵舎，各種の作業場なども予測されるが未発見である。
昨年　12 月　すぐ下に　古代の製鉄地帯をすぐ下に見降ろす鬼ノ城東門の上の尾根筋から鍛冶炉を伴う鍛冶工房跡が発掘され、鬼ノ城内で大規模に武器を作って、備えていたことがわかってきた。
百済再興のため、朝鮮に兵を送った日本が、663 年の白村江の戦いで敗北。唐・新羅連合軍が本土に侵攻するのではないかと危機感を抱いて、西日本各地に築かせた古代山城の一つであるという説に信憑性を帯びてきたといえる。

2. walk 2010.1.15.

古代の山城 鬼ノ城で鍛冶炉跡6基が出土、 大規模にこの山城で鉄器生産か

7世紀後半　663年　朝鮮半島白村江の戦いでの敗北から、唐・新羅の連合軍の本土侵攻する備えか

岡山県古代吉備文化センター　ホームページ　ほかより http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kinojou-top.html

2009. 12. 26.　by Mutsu Nakanishi

桃太郎説話や「温羅伝説」の舞台として、古くから親しまれてきた鬼ノ城。
その築城目的は、663 年の白村江の戦いにおける敗北から、唐・新羅の連合軍が本土に侵攻するのではないかと危機感を抱いた当時の政権が、西日本各地に築かせた古代山城の一つであるという説がよく知られている。しかし『日本書紀』などには一切登場せず、築かれた時期についても様々な説があり、未だ多くの謎に包まれた遺跡である。

昭和５３（１９７８）年の鬼ノ城学術調査団による調査、さらに平成６（１９９４）年からの総社市教育委員会による発掘調査が行われ、角楼（かくろう）や城門など、城の外郭（がいかく＝外側）の壮大な姿が次々と明らかになりました。

城内については、平成１１（１９９９）年に岡山県古代吉備文化センターが確認調査を行い、礎石建物群の様相や鍛冶関連の遺構の存在が明らかになりました。今回は、前回の確認調査で得られた成果をもとに、より広い調査区を設定し、平成１８（２００６）年度から７か年計画で調査に取り組んでいる。

■　調査位置図（H21 年度）

2. walk 2010.1.15.

山陽新聞 THE SANYO SHIMBUN WEB NEWS

http://svr.sanyo.oni.co.jp/news_s/news/d/2009090201253742/

総社・鬼ノ城に鍛冶工房ゾーン確認　遺構２カ所目　鉄滓など出土

古代山城・鬼ノ城（国指定史跡、総社市奥坂）で岡山県古代吉備文化財センターが進めている発掘調査で１日までに、同城内２カ所目となる鍛冶（かじ）工房の跡が確認された。鉄の不純物・鉄滓（てっさい）が大量に出土、炉壁や鉄器の一部も見つかっており、鉄器の生産・補修が行われていたとみられる。以前に見つかった鍛冶工房跡と近く、一帯に工房ゾーンが広がっていた裏付けになると注目を集めている。

鍛冶工房跡が見つかったのは、東門跡から西に約１８０メートル入った尾根上で、直径１・５メートルの範囲から関連遺物や熱を受けて焼けた岩が集中して出土した。炉壁は幅１１センチ、高さ９センチの粘土質で熱を受け表面が黒く溶けている。鉄器片は５ミリ四方の板状で器種は不明。鉄滓は約２００点で、大きい物は１辺１０センチ以上ある。

古代山城に詳しい亀田修一岡山理科大教授（考古学）は「全国の古代山城で鍛冶工房が確認されているのは鬼ノ城だけで、機能を把握する重要な手掛かりとなる。何を作っていたか知るため今後は製品の出土が期待される」と話している。

鬼ノ城で鍛冶炉跡６基が出土、大規模に鉄器生産か

全国の古代山城で唯一、鉄器にかかわる鍛冶（かじ）工房跡が確認されている鬼ノ城（国史跡、総社市奥坂）の発掘調査で２８日までに、新たに計６基の鍛冶炉跡が出土した。当時の官営工房に通じる技術も確認され、必要とする鉄器を城内で供給できる大規模な生産体制を持っていた可能性が高まった。

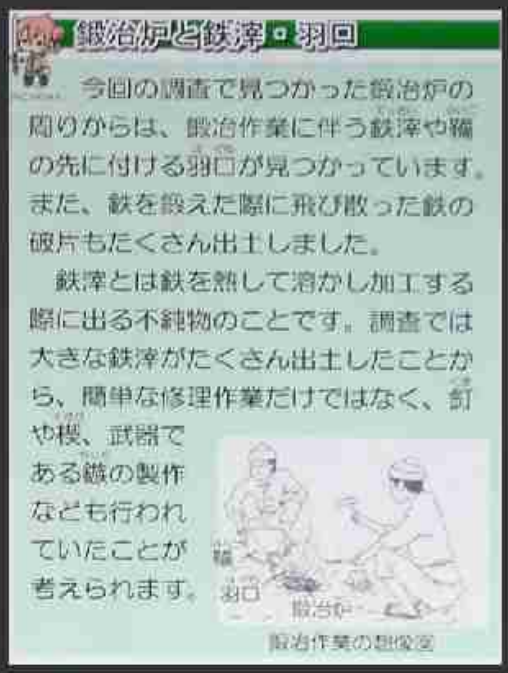
岡山県古代吉備文化財センターが７月から、東門跡近くの谷部を発掘調査。９月初旬には鍛冶の際に出る鉄の不純物・鉄滓（てっさい）などが見つかり、谷部一帯に鍛冶工房ゾーンが広がるとみられていた。

鍛冶炉跡は、３カ所の調査区（計１３５０平方メートル）すべてから出土。地面に穴を掘り、内側に粘土を張った構造で、最大で直径３０センチ、深さ８センチ。高温を受けて炉壁は赤く焼け締まり、一部には鉄滓が付着していた。伴った須恵器（すえき）からいずれも７世紀後半とみられる。

鬼ノ城で新たに見つかった鍛冶炉跡

2. 桃太郎伝説の吉備路walk 鬼ノ城を訪ねる　　2010.1.15.

【鬼ノ城　鍛冶工房跡で発掘された鍛冶遺物の展示】



鉄滓　　鍛冶炉

羽口

発掘の様子

羽口の残る鍛冶炉

吉備古代文化財センターに展示されていた鬼ノ城　鍛冶工房跡で発掘された遺物　2010.1.15.

岡山県立吉備古代文化財センターにて　　2010. 1. 15.

岡山県古代吉備文化財センター

鬼ノ城「調査員便り」の最新版を掲載

２００９年１０月１日（木）　調査のきっかけ

「ここを掘ったら出る、というのがどうして分かるの？」私たちがよく受ける質問です。
９月下旬から新たに発掘を開始したこの地点は、地表に落ちていた１点の遺物が調査のきっかけになりました。
これは、鍛冶炉の火力を上げるために風を送る吹子（ふいご）という装置の一部で、送風口にあたる部分です。前の調査区に引き続き、ここでも鍛冶工房が出てくるのか、それともハズレなのか、掘ってみないと分かりません。（M）

２００９年１０月９日（金）　無数の鉄滓

鉄滓というのは、鍛冶作業を行った時にできる鉄の不純物のかたまり。
調査を始めて間もなく、無数の鉄滓が出土し始めました。
写真の白い札はその位置を示しています。
この付近にも鍛冶工房があったことは確実なようです。（M）

２００９年１０月１４日（水）　突然の雨に・・・

現在の調査地点は、城内でも東端部にあり、駐車場から歩いて約３０分の距離。
雨が降り出したからといって雨の中を下山するのも大変です。
急きょ現場にブルーシートを張り、突然の雨と雷をやり過ごすことに。
日没も近づき、暗い山の中で途方にくれる面々でした。（M）

２００９年１０月２１日（水）待望の鍛冶炉！

吹子（ふいご）の一部や鉄滓がたくさん出土し、ここに鍛冶工房があったであろう状況証拠は出揃っていましたが、ついに、待望の鍛冶炉を発見！
直径約３０ｃｍ、お椀形に地面を掘りくぼめた炉で、真っ赤に焼けています。
まさにこの場所で鉄を加熱し、鉄製品を作っていたのです。調査参加者一同、感激の瞬間でした。（M）

２００９年１０月２９日（木）またまた鍛冶炉！

前回紹介した鍛冶炉から数m離れた所で、２つ目の鍛冶炉を発見しました。
少なくとも２つの鍛冶炉を備え、鉄滓などの量も多く、どうやら想像していたよりも本格的な鍛冶工房のようです。
わずか１点の遺物を拾ったところからスタートした調査地点でしたが、予想以上の成果が上がりました。（M）

２００９年１１月６日（金）今度は何が？

調査期間もあと２か月を切り、いよいよ今年最後の調査区で発掘作業が始まりました。ここでは 10 年前の確認調査で「竪穴遺構」が見つかり、鉄滓やふいご羽口などが出土していて、鉄器を製作した鍛冶場だったと考えられています。
今回の調査は、この竪穴周辺を精査し、鍛冶作業の様子を解明するのが目的です。まだ旧トレンチを再掘削している段階ですが、今度はどんな発見が飛び出すか楽しみです。（O）

２００９年１１月１２日（木）中学生の職場体験

今日は、岡山市の吉備中学校の生徒さん３人が職場体験にやって来ました。もちろん発掘現場に立つのは初めての子ばかり。掘り道具を手に、おっかなびっくりで土に立ち向かいます。

彼らが担当したのは、１日かけて調査区の片隅を掘り下げる作業です。

遺物を見落とさないように慎重に掘り進めましたが、結果的には数点の土器片が出てきただけでちょっと物足りなかったかも知れません。

でも実際の発掘調査、ひいては仕事というものは、こういう地道な作業の連続だということを知るにはいい機会だったのではないでしょうか。（O）

２００９年１１月２４日（火）　さらに鍛冶炉！

今回の現場でも、たくさんの鉄滓が地中から次々に湧きだしてきました。

それらを取り上げながら慎重に掘り進めると、またしても硬く焼け締まった粘土の塊が姿を現しました。

直径 30 cmほどの浅い椀状で、やはり鍛冶炉に間違いありません。

しかも今度は、炉の内面に鉄滓がべったりとこびりついているではありませんか！まさに鍛冶作業の様子を生々しく伝える貴重な資料です。

鬼ノ城の東端にあたるこの一帯は当時の鍛冶工房ゾーン、きっとあちこちで煙が上がり、鉄を鍛える槌音が高らかに鳴り響いていたことでしょう。（O）

2009年12月25日　金曜日

歴ナビ
旅する日本史

邪馬台国 近づいた

09年　考古学を振り返る

纒向、論争呼ぶ建物跡 ■ 12万年前の最古級石器

2009.12.25. 朝日新聞　夕刊より

歴ナビ
旅する日本史

邪馬台国 近づいた

2009年の考古学関連ニュースは例年以上に「新たな夢」をもたらした。奈良・纒向遺跡の大型建物跡の発見で、久しぶりに邪馬台国論争が盛り上がる機運が生まれた。鏡などの出土も歴史像の変革を迫る論議に発展し、ユーモラスな人面土器は明るい話題を生んだ。研究者らの地道な努力は、大人の歴史ロマンを豊富に届けさせている。（天野祐弘）

09年　考古学を振り返る

以前から「邪馬台国近畿説」の有力候補地だった奈良県桜井市・纒向遺跡では発掘調査が続き、11月には弥生末期（3世紀）とみられる大型建物跡が発見された。これで神殿とも推定される特異な建物跡が少なくとも4棟、ほぼ東西方向に整然と並ぶ配置の設計プランが明らかになった。

これに加担をかけるように、すぐそばの箸墓古墳の年代問題をめぐっても、築造時期が卑弥呼の時代に近づくとする発掘があり、九州説との間で論争が再燃、議論する大型建物跡からは、魏志倭人伝にある木棺の中が出土した。

纒向遺跡からはすでに大きな祭殿跡や、祭の道具とみられる祝詞などが見つかっている。三種のシンボルとされる玉類や銅鏡などが出土している古い時期の土器群、箸墓古墳の可能性が指摘される巨大な前方後円墳・桜井茶臼山古墳の再調査でも、石室上の墳丘を覆った埴輪群が新期、古代史上、極

新たな邪馬台国論争の火種になった纒向遺跡の大型建物跡＝奈良県桜井市、本社ヘリから、荒元真澄撮影

ココヤシを利用した弥生時代の人面の容器＝静岡県守山市の下之郷遺跡

00年に東・北日本で発掘した旧石器時代遺跡の捏造事件ショックから本格的に明確できるような遺構が9月、鹿児島県市の砂原遺跡で見つかった。指原学者らの参加した手厚い調査によるもので、事件後は発掘の約12万年前と判明、さらに多角的な検討が慎重に期待されている。

「学生さんには欠けるものの、鹿児島県内で確認された最大級の弥生時代の鉄器工房跡、神戸での青銅器鋳型の発見、高知県の鉄器工房跡、静岡県での人面土器の出土、今年は新しい出来事が次々と見つかった。

約12万年前のものとみられる鹿児島県出土・砂原遺跡出土の旧石器＝矢木隆撮影

土器の一部だったと推定される弥生時代の人面＝三重県伊賀市柏野町・佐古遺跡

今年は新しい出来事が次々と見つかった。鉄器・銅器の出土は明るい話題を生んだ。研究者らの地道な努力は、大人の歴史ロマンを豊富に届けさせている。

間違いの発覚を見逃せない。これまで自然科学とは縁の薄いとされてきた近畿地方の研究に新風をもたらしたからだ。歴博研究の新鋭、村上忠浩・愛媛大教授が今年の田井遺跡に続いたのも、偶然とは思えない感慨を呼び起こします。

「唐・新羅軍に日本が大敗した白村江の戦い（663年）、その後の防衛網設置とされる飛鳥時代の山城、鬼ノ城（岡山県総社市）で鉄器工房の発見は、当時の緊張感の発掘を実感させた。

今年は新しい出来事が次々と見つかった。鉄器・銅器の出土は明るい話題を生んだ。研究者らの地道な努力は、大人の歴史ロマンを豊富に届けさせている。

「ゆかりを訪ねて」は伏人さ

かった。奈良県明日香村で初めての確実な関連遺構や、歴史の復元に大いに役立つ発掘の発見も続いた。京都・長岡京遺跡で、初期の「神様さま」の祭がある神仏習合遺跡跡とみられる遺跡が見つかったのも注目に値する。

「海外での活躍も目立った。関東二・国立民族学博物館教授らがアンデス文明のペルー・パコパンパ遺跡で、女性の遺骨が多数につけていた金の装飾品を発見。約3000年前に作られたかさぶったと考えられ、カンボジアのアンコール遺跡近くでは、高度文明研究所の協力で高度技術を駆使する博物館ができた。

「かつての調査に携われる調査・大学調査研究の一部「考古学は安笠期」を初めた。但し発掘作の反省もあり、発掘成果も一部、慎重に検討されている。そうした例まで新しい調査の中、今年も数々の「未知との出会い」があったといえる。

◆「ゆかりを訪ねて」は伏人さ

纒向、論争呼ぶ建物跡■12万年前の最古級石器

《1月》
万葉歌碑の木簡が見つかった京都府木津川市の馬場南遺跡から、8世紀前半の神仏習合の「神願寺」らしい仏堂跡が出土▽青手県奥州市・清上遺跡で、「字治橋所」と10世紀に記された最古の字名の木簡を確認▽兵庫県淡路市（淡路島）の垣内遺跡で、2～3世紀に操業した最大規模の鉄器工房跡を検出した。

《2月》
神戸市の貴井遺跡で約2千年前の銅剣の鞘屋とみられる石製品が出土▽福岡県太宰府市・太宰府跡で、8世紀中頃の大型掘立柱建物跡を初確認▽京都府宇治野町の横江遺跡から、鉄のついた約2400年前の人面土器が出土。

《3月》
奈良県橿井市の大福遺跡から、保存状態が良い2世紀後半の木製甲が出土▽高知県土佐市の上ノ村遺跡で、約2千年前の鉄器約250点を確認▽鳥取市・本高弓ノ木遺跡で、大型台に鉄刀を差し込んだ5世紀の埴輪馬具がほぼ完全な形で確認される。

《4月》
埼玉県熊谷市の諏訪木遺跡から、15世紀前半の提灯銭5千枚以上を発見▽静岡県守山市の下之郷遺跡で、約2千年前のココヤシ製人面容器が確認される。

《5月》
岡山県総社市の上原遺跡で、炭化物がある約3000年前の人骨に似た土器を発見▽愛知県幸田町の本光寺にある鳥居信吉・松平忠雄（1730年没）の墓から、大量の小判などが出土▽「寿永得の墓」銘がある長井市の善墓古墳近くで出土した土器の時期が、卑弥呼没年（248年ごろ）に合致する240～260年と国立歴史民俗博物館が発表した。

《6月》
3世紀末～4世紀初めの桜井市・桜井茶臼山古墳の再調査で、石室上部を約150本の丸太の壁で囲った痕跡が判明▽奈良県明日香村の甘樫丘東麓遺跡で、蘇我氏の邸宅跡とみられる7世紀前半の石垣や石敷きを確認。

《7月》
奈良市の西大寺旧境内から、国内最古という8世紀後半のイスラム海路が出土▽滋賀県彦根市・佐和山城遺跡で、石田三成が城主だった16世紀末の格式建物を発見▽約3千年前の奈良県橿原市～御所市の鴨宮寺本遺跡から、両端に木杭を打って基礎にしたとされる初の基礎3基が確認される。

《8月》
奈良市・平城宮跡から、8世紀後半に銅鈴を管理していたと記す木簡が出土▽岐阜県西濃井町の温路遺跡で、金銅製飾り金具など、12世紀ごろとみられるの最古級の小型の神殿部品が確認される。

《9月》
静岡県沼津市の前方後方墳・辻畑古墳出土の土器は吉野約230年製作と判明。最古級古墳の可能性が指摘される▽箸墓古墳近くで、堀のある二重円墳を確認▽鹿児島県霧島市の大隅国府跡推定地近くから、6世紀後半～10世紀初めに高級品で和歌を書いた土器を発見▽鳥取県出雲市・砂原遺跡で、約12万年前の最古級の旧石器が確認される。

《10月》
奈良県御所市玉手で、同県最古の約2500年前の水田跡が判明▽同県明日香村の橘町遺跡群から、屋内跡に柱を伴な掘建柱系の7世紀前半ごろの大型建物跡が発見される。

《11月》
桜井市の纒向遺跡で、3世紀前半の大型建物跡を確認▽福岡県久留米市の京隈神籠敷跡から、戊辰戦争（1868～69）に関連するとみられる7連発式の新式銃弾丸が出土▽鳥取市・本高古墳群から、山陰最古級の4世紀前半の前方後円墳が見つかる。

《12月》
岡山県総社市の鬼ノ城遺跡から7世紀後半の鉄器工房跡7基が出土▽平城宮跡で弾丸を置ろ8世紀後半の役人が書いたとされる解い板を確認▽福岡市の金武青木A遺跡から、弥生時代の墓が築かれた8世紀の怡土城に関連するとみられる地名や人数を記した木簡が出土。

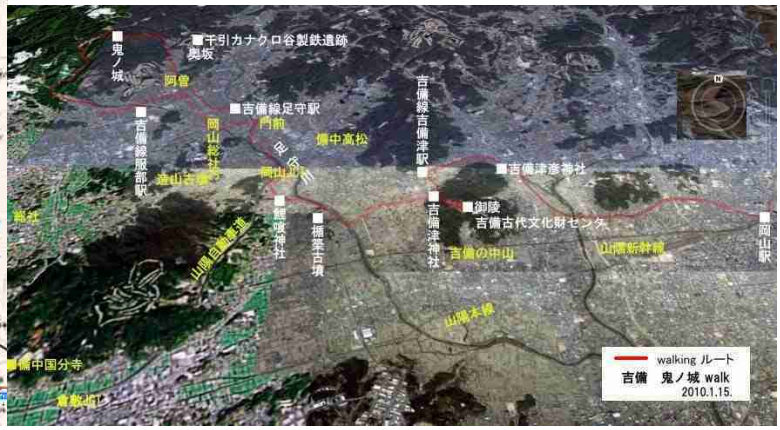
2009.12.25. 朝日新聞　夕刊より

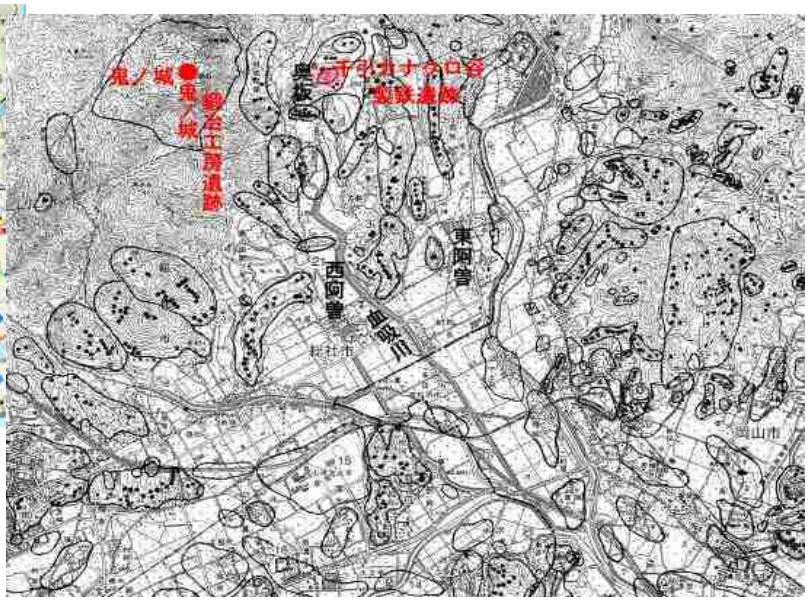
2. walk 2010.1.15.

奥坂製鉄遺跡群　千引カナクロ谷製鉄遺跡

「現在出土している日本最古後半の製鉄炉がある千引カナクロ谷製鉄遺跡」

鬼ノ城　東門の上からみた奥坂　千引カナクロ谷製鉄遺跡　（鬼ノ城 GC 内中央部の貯水池の下）　2010. 1. 15.





鬼ノ城の東山麓山裾に広がる製鉄遺跡群

〔右図は総社　阿曽周辺の遺跡地図〕

鬼ノ城直下の東山麓に広がる阿曽の郷は「真金吹く吉備」の古代吉備の大製鉄地帯の心臓部

その中心をなす「**現在出土している日本最古　6 世紀の製鉄炉がある千引カナクロ谷製鉄遺跡**」

是非一度足しためたかった古代の製鉄遺跡。何度か周辺を歩きましたが、鬼ノ城 GC の貯水池の下に眠っていると聞くだけで、正確な位置　どんな所に製鉄炉が合ったのか知りませんでしたが、今回　新たに発掘された 7 世紀の鍛冶工房跡のある鬼ノ城・東門の山上からその位置・地形を眺めることができました。

『千引カナクロ谷製鉄遺跡』は、鬼ノ城の東山麓の幾つもの小さい谷間が続く奥坂の北に開ける小さな谷間に国内最古急の製

鉄炉が出土した製鉄遺跡(6 世紀後半 －7 世紀初頭)で、炭焼き窯 3 基を含む製鉄炉 4 基の遺跡全体は、60 ㎡という当時ととしては大規模な構造を持つ。
この鬼ノ城直下の東山麓周辺ではこのほか、奥坂製鉄遺跡群と呼ばれるいくつもの古代製鉄遺跡が出土している。
古代「真金吹く吉備」と呼ばれた吉備の古代の大製鉄地帯の中心にある製鉄遺跡遺跡である。
遺跡はゴルフ場建設に伴う調査で出土したが、現在「鬼ノ城 GC」の中にある貯水池の下 20m のところに埋め戻されて眠っているという。
　千引カナクロ谷製鉄遺跡を含め、この周辺で出土した数多くの製鉄遺跡については光永真一氏著　吉備考古ライブラリー・10　「たたら製鉄」に詳細整理され、掲載されている。
光永真一氏著　吉備考古ライブラリー・10「たたら製鉄」から千引カナクロ谷遺跡の概要・製鉄炉について解説記述されている部分を抜き出すと次のとおりである。

　千引カナクロ谷遺跡は北東方面に開く小さな谷の奥まった南斜面裾に2～4号の3基の製鉄炉が重複して存在し、対する北斜面を 5 メートル上がって 1 号製鉄炉、その上方に 2 基の「ヤツメウナギ」(炭焼き窯の表現) があり、谷の西奥にもう一基の「ヤツメウナギ」が位置している。
炉の操業順は 4 号炉がもっとも古く 2 号炉→1 号炉→3 号炉と考えられ、操業の終了は 7 世紀初頭前と考えられた。
これまで知られていた７～８世紀代の炉跡と比べても一回り大きな地下構造に石を丁寧に使用する４号炉が国内最古級の製鉄炉と判明した。

図48　総社市千引カナクロ谷製鉄遺跡全体図（1/800）

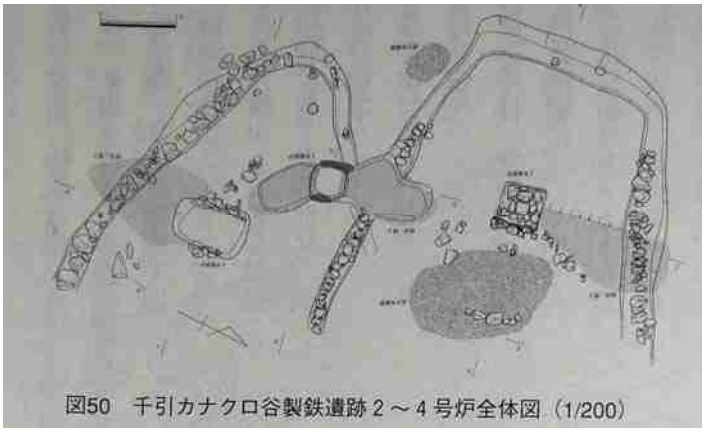
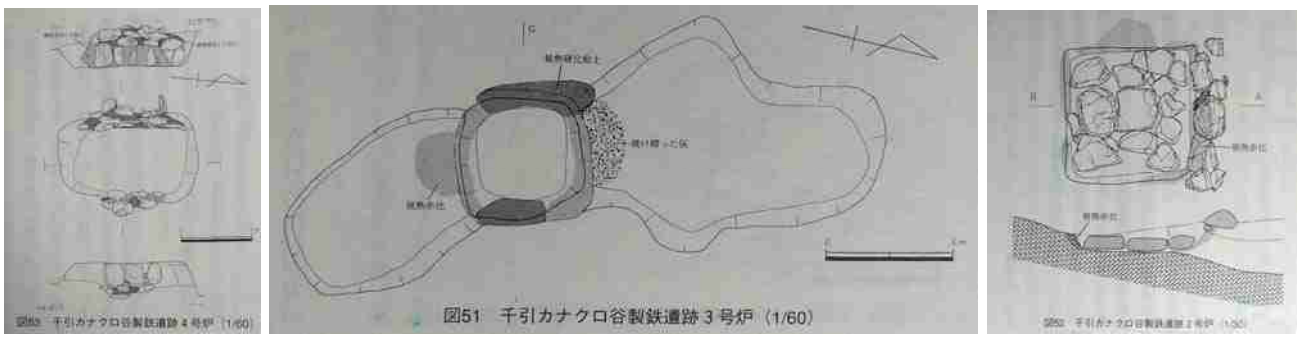


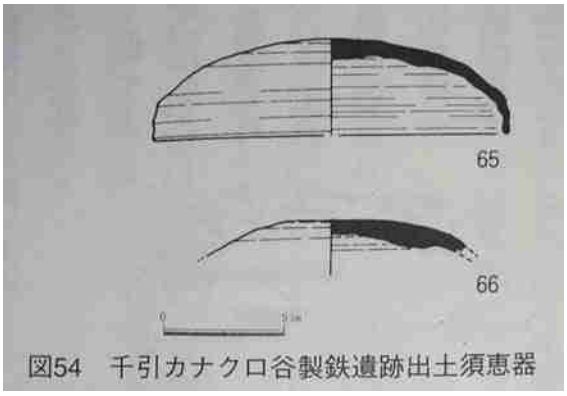
図50　千引カナクロ谷製鉄遺跡２～４号炉全体図（1/200）

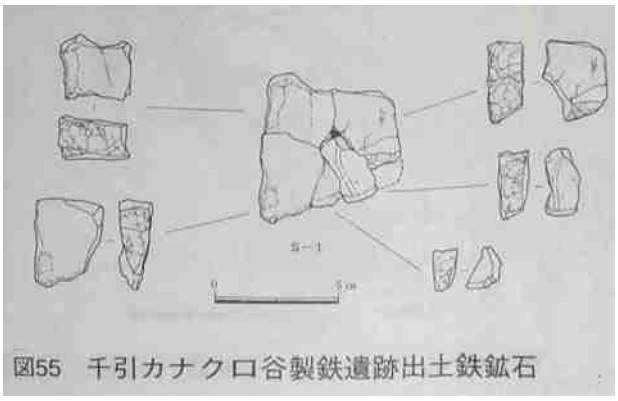
千引かなくろ谷製鉄遺跡　左より　4→3→2 号製鉄炉　　光永真一　吉備考古ライブラリー・10　「たたら製鉄」より

国内最古級の４号製鉄炉は２号炉から７メートルほど離れて存在し、周りにＵ字１状に掘られた溝には暗渠状に石敷きが施されて、２号炉のそれと重なっている。地下構造となる土コウは 205X135cm と大きく、深さ 25～50cm を測る側壁のうちでも、長辺には粘土で目張りされた３段の石積みが良好に残っていた。石積みは全体に熱影響をうけているが、より強い熱影響を示す２段目以上に補修が繰り返された跡がみられた。
２～４号炉一帯の作業面や排滓溜まりからは鉄鉱石の小片が出土し、これが原料と考えられている。また２～４号炉一帯排滓溜まりから須恵器が出土し。６世紀第Ⅲ四半期と判断された。(途中省略して整理抜粋させてもらってた。



千引カナクロ谷の製鉄炉　左より　４号　３号　２号製鉄炉　いずれも日本最古級の６世紀第Ⅲ四半期の製鉄炉

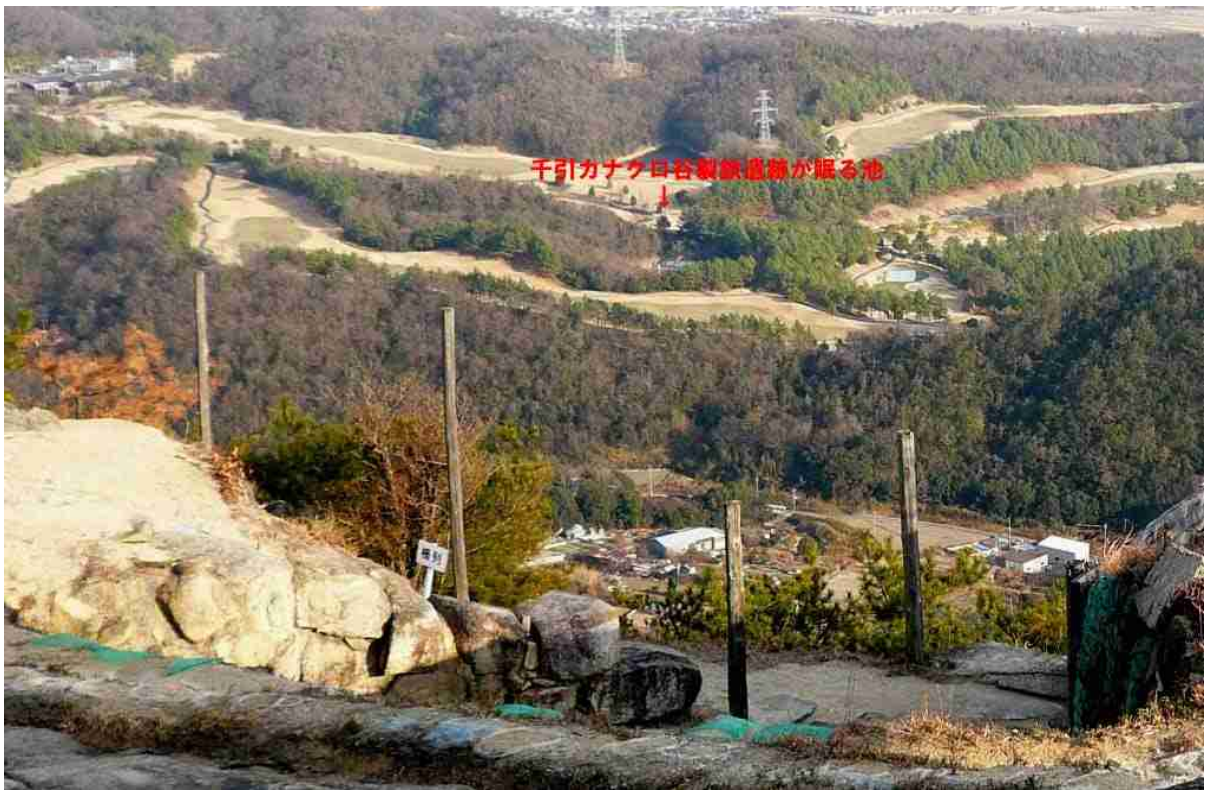




千引カナクロ谷製鉄遺跡より出土した須恵器と製鉄原料と見られる鉄鉱石片

ここまで　上記　光永真一著　吉備考古ライブラリー・10　「たたら製鉄」より　整理転記させていただきました。

この奥坂のすぐ東側にはが急峻な山肌を見せる鬼ノ城（鬼城山）がそびえている。この奥坂の製鉄遺跡群は鬼ノ城 GC の中にあるので、フリーに遺跡のある場所にはいけないが、この東阿曽・奥坂は鬼ノ城　東門の直下にあたり、この地域を鬼ノ城　東門から眼下に見下ろせる。
また、急峻な崖道ではあるが、この東門と阿曽の郷との間には道がある。
時代が少し下るが、７世紀　唐の侵攻に備えたこの山城が完成し、城の中でも武器の生産が行われた鍛冶工房が見つかったが、この阿曽・奥坂地区で生産された鉄と密接につながっていたと思われる。



鬼ノ城　東門　山上から見た東山麓　奥坂　千引カナクロ谷製鉄遺跡が眠るゴルフ

G

南側から阿曽の郷・鬼ノ城・奥坂を google earth で鳥瞰

７世紀　鬼ノ城の中に作られた鍛冶工房跡　もううめもどされていました　　2010.1.15.

鬼ノ城　鍛冶工房跡　発掘調査の状況　　吉備古代文化財センタ　インターネットより

山陽新聞 WEB NEWS

総社・鬼ノ城に鍛冶工房ゾーン確認　遺構２カ所目　鉄滓など出土

古代山城・鬼ノ城（国指定史跡、総社市奥坂）で岡山県古代吉備文化財センターが進めている発掘調査で１日までに、同城内２カ所目となる鍛冶（かじ）工房の跡が確認された。鉄の不純物・鉄滓（てっさい）が大量に出土。炉壁や鉄製の一部も見つかっており、鉄器の生産・補修が行われていたとみられる。以前に見つかった鍛冶工房跡と近く、一帯に工房ゾーンが広がっていた裏付けになると注目を集めている。

鍛冶工房跡が見つかったのは、東門跡から西に約１８０メートルに入った高所とで、直径１・５メートルの範囲から関連遺物や熱を受けて焼けた跡が集中して出土した。炉壁は幅１１センチ、高さ９センチの粘土質で熱を受け赤褐色に焼けている。鉄滓片は５３１個（重量約２００キロ）で、大きい物は１辺１０センチ以上ある。

古代山城に詳しい亀田修一・岡山県埋蔵文化財センター所長（考古学）は「全国の古代山城で鍛冶工房が確認されているのは鬼ノ城だけで、機能を把握する重要な手掛かりとなる。何を作っていたかを知るための今後は製品の出土が期待される」と話している。

鬼ノ城で鍛冶炉跡６基が出土、大量に鉄器生産か

全国の古代山城で唯一、鉄器にかかわる鍛冶（かじ）工房跡が確認されている鬼ノ城（国史跡、総社市奥坂）の発掘調査で２日までに、新たに計６基の鍛冶炉が出土した。当時の製鉄工程に通じる痕跡も確認され、必要とする鉄器を城内で供給できる大規模な生産体制を持っていた可能性が高まった。

岡山県古代吉備文化財センターが７月から、東門跡近くの谷部を発掘調査。９月初旬には鍛冶炉に出る鉄の不純物・鉄滓（てっさい）などが見つかり、谷部一帯に鍛冶工房ゾーンが広がっていたとみられていた。

鍛冶炉跡は、２カ所の調査区（計１３３０平方メートル）すべてから出土。地面に穴を掘り、内側に粘土を張った構造で、最大で直径３０センチ、深さ８センチ、高温を受けて炉壁は赤く焼け締まり、一部には鉄滓が付着していた。作った鉄製品（すえ手）からいずれも７世紀後半とみられる。